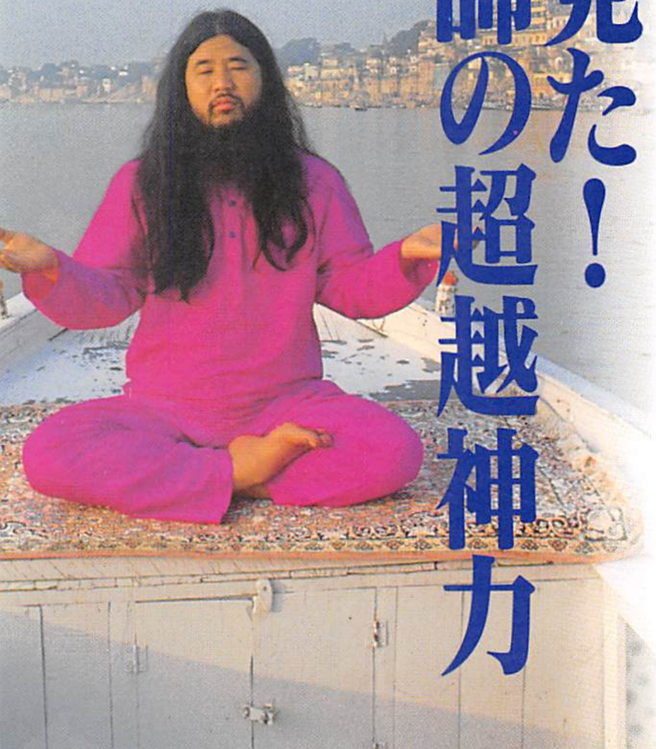
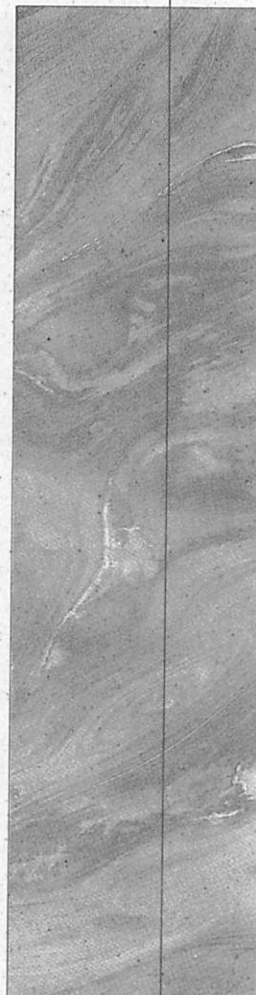
あなたの持っている本当の力

超越神力 PART—4

わたしは見た！ これが尊師の超越神力



麻原彰晃



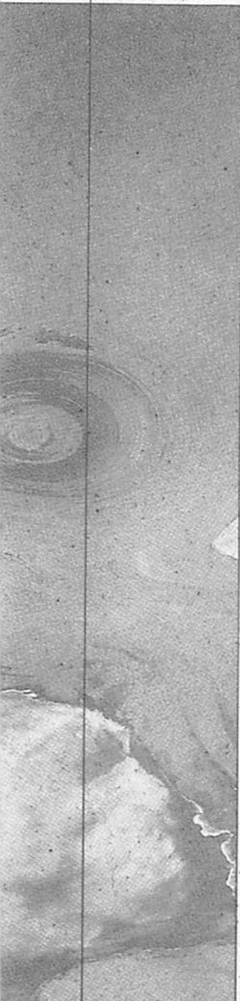
あなたの持っている本当の力

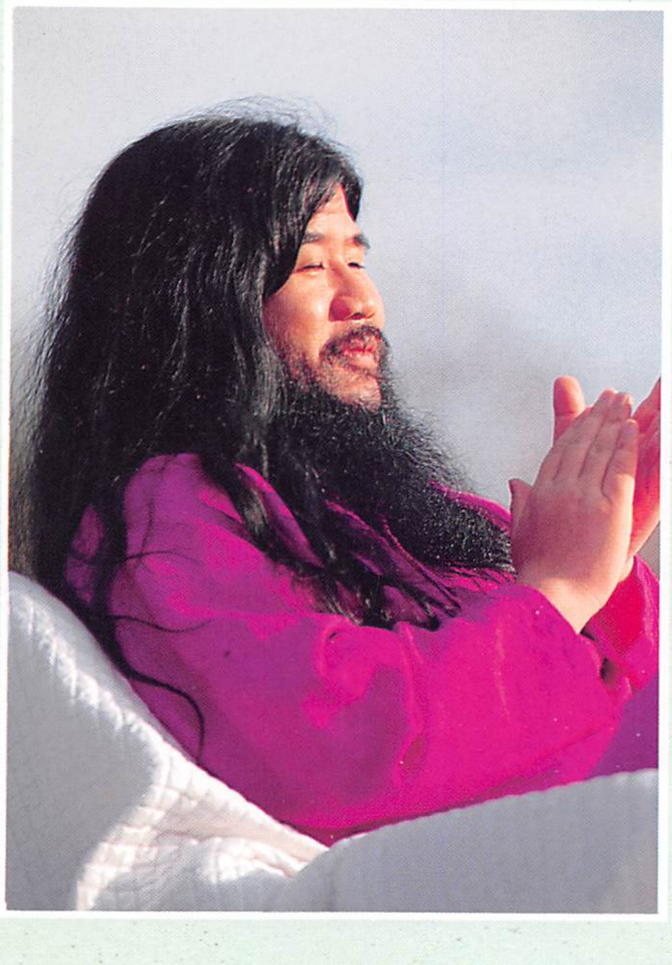
超越神力（ちょうえつじんりき）

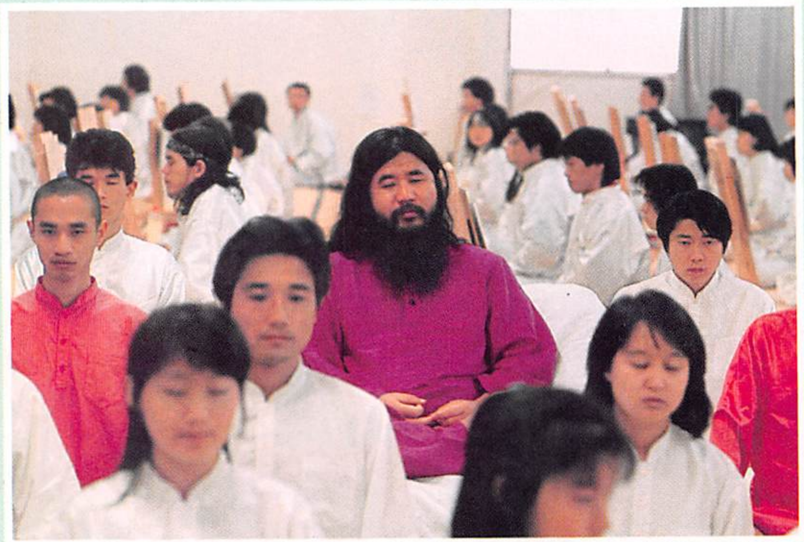
PART—4

麻原彰晃

わたしは見た！
これが尊師の超越神力







弟子たちが見た驚くべき尊師の超越力。その一部をここに明かそう……。

はじめに

このシリーズでは、最終解脱者・麻原彰晃尊師が、人智をはるかに超えた力——〝超越神力〟を一つ一つ取り上げてきた。

ＰＡＲＴ１では、神々の声を聞いたり、遠く離れた音を聞いたりする「天耳通」と、他人の心をズバリと知る「他心通」。ＰＡＲＴ２では、自分や他人の前生を知る「宿命通」と、来世を知る「死生智」。そして、ＰＡＲＴ３では、最高の超越神力、完全なる絶対なる神の叡智「漏尽通」。

これまで一般にいわれてきた超能力や霊能力とは全くレベルの違う、これらの力が次々と明かされ、この超越神力シリーズは大変な反響を巻き起こしたのである。

今回は、特別編として「わたしは見た！　これが尊師の超越神力」をお贈りし

たいと思う。本書には、麻原尊師の超越神力を実際にその目で見、その耳で聞き、肌で実感した者たちの驚くべき体験談が数多く掲載されている。弟子たちは、このような超越神力と広大な四無量心を持った尊師に導かれ、自らも尊師のような神秘力と絶対的な心の平安を得つつあるのである。

あなたが本書によって目覚め、彼らのように偉大な「超越神力」獲得の道を歩み始めることを祈って——。

九一年十二月五日　　オウム出版広報編集部

※なお、この本をより深く理解するために、次の書も併せて読んでいただきたい。

『超越神力PART1　天耳通・他心通』
『超越神力PART2　前生を知れ！　死生智の秘密』
『超越神力PART3　完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通』
『タターガタ・アビダンマ第一誦品　大宇宙の実相』
『タターガタ・アビダンマ第二誦品　真理勝者の救済計画』
いずれも麻原彰晃著・オウム出版

CONTENTS

超越神力

あなたの持っている本当の力

PART 4

わたしは見た！
これが尊師の
超越神力

目次

●空腹感までわかってしまう
●言い出しにくいこともズバリ伝わる
●すべてはお見通し
●尊師は何でも知っている
●何も言わなくても的確な指示
●救済者の厳しさを諭す
●タイミングが良すぎる尊師の電話
●まざまざと見せつけられたパワー
●すべてを映し出す透明な鏡
●心の揺れをピタリと止める
●どこにいても弟子を見守る
●だれも知らないはずの設計ミスが……
●見抜かれた心の乱れ
●衝撃的な超越神力

※オウム真理教では、一つのヨーガを成就するとホーリー・ネーム（祝福された宗教名）が与えられます。本文中の体験談は、一部ホーリー・ネームにしております。

第一章　わたしは見た！・これが尊師の超越神力

「わたしには超能力がある」、あるいは「わたしには霊能力がある」と公言する人は世界に数え切れないほど存在する。また、その本人だけでなく、第三者から見ても「あの人には超能力（霊能力）がある」とされている人も結構いる。しかし、その超能力たるものの中身を見た場合どうだろうか。例えばちょっとした物を動かす念力等に代表されるように、人生を変え得るスーパーパワーとはとても思えないものが多い。

本書で紹介する超越神力は、明らかにこれらとは一線を画する。正しい仏教の修行によってわたしたちの煩悩を捨断、つまり捨て断つことによって、心を透明にしていくと、次の六つの超越神力が発現する。仏教で「六神通」と呼ばれているものである。

・神足通（空中浮揚やテレポーテーションを行なったり、高い世界へ飛んだりすることのできる能力）

・天耳通（てんにつう）（神々の声を聞いたり、遠くの音を聞いたりする能力）
・他心通（たしんつう）（他人の心を知る能力）
・宿命通（しゅくみょうつう）（前生を知る能力）
・死生智（ししょうち）（転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる能力）
・漏尽通（ろじんつう）（完全なる絶対なる神の叡智）

これらの力は一つ一つが非常に深遠なので、実際はこのように一言で言い表わすことはできない。詳しい説明は、『超越神力PART1 天耳通・他心通』『超越神力PART2 前生を知れ！ 死生智の秘密』『超越神力PART3 完全なる絶対なる神の叡智――漏尽通』（いずれもオウム出版）を参照していただきたいが、これら六つの超越神力を獲得すると、すべてが思いのままになるということだけはいっておこう。そして、この六つの超越神力をすべて獲得して初めて、弟

子を解脱へと導くことのできる至高のグル（導師、宗教上の指導者）ということになるのである。

麻原尊師は、八年間の長い歳月を激しい修行に費やし、八六年の夏、ヒマラヤにおいて最終の解脱を果たされた。この境地は、二千六百年前に登場した仏教の開祖、サキャ神賢（釈迦牟尼）と何ら変わることのないほどの高みである。

尊師は、かのサキャ神賢と同じように、この六つの超越神力を完璧に得、そして、その計り知れない神秘力と広大な四無量心によって弟子たちの霊性と精神のステージを向上させ、確実に解脱へと導かれた。後程もう少し詳しく述べるが、実に現在に至るまでに、二百五十名余りの弟子が何らかのヨーガの成就を果たし、その中の十一名は仏典でいう阿羅漢の境地に達して神秘的な力を得ているのである。

ここで少し四無量心について述べておこう。四無量心とは、「すべての人を平等に慈しみ育む」「すべての人の苦悩を少しでも取ってあげる」「すべての人の善行を誉め称える」「すべてのカルマの現象に対して頓着しない」という四つの偉

大なる心であり、尊師の超越神力はこの心を背景としている。

どんなに素晴らしい力があったとしても、それが自分、あるいは他の魂の成熟、本当の意味での幸福につながらないとしたら、それはいったい何の意味をなすだろう。この点においても、現在、精神世界・宗教界に蔓延しているエゴを背景とした超能力、霊能力と尊師の超越神力とは全く違うのである。

＊　＊

次に挙げる体験談は、弟子たちが実際に体験した尊師の超越神力のごく一部である。おそらくあなたの常識をはるかに超えた力なので、科学万能主義に侵された方々には、にわかには信じ難いかもしれない。しかし、尊師のその修行ステージの高さは、世界各地の多くの聖者方の絶賛の言葉によって裏づけられているものであるということはあらかじめお伝えしておきたい。

それでは、その神秘の世界へあなたをご案内することにしよう――。

◉空中浮揚

八〇年二月の寒い夜のことでした。冷たい空気をものともせず、窓を開け放して、わたしたちはムドラーの修行に励んでおりました。尊師も水泳パンツ一枚で修行していたのです。

わたしたちは修行を終えて夜食を取っておりました。すると、尊師が修行なさっている隣の部屋から急にドンドンドンドンという激しい音が聞こえてきました。

(何やってんのかなあ。)

と思って入ってみると、尊師は荒い呼吸で大変興奮していらして、こうおっしゃいました。

「自然に体が跳ねるんだよ。」

それを聞いたときは、

(そんなことってあるのかな。)

と思いました。そこで、尊師のそばで見ていたのです。

プラーナーヤーマを始めて、しばらく精神集中すると、体が跳ね出しました。そのころ、尊師の体重は七〇キロぐらいだったのですが、そうした重さが引力に反して弾むということに、わたしは驚いてしまったのです。

それが、初めてのダルドリー・シッディでした。それからしばらくして、空中浮揚が起こったのです。

それは、皆で修行していたときでした。

尊師が瞑想に入られると、突然尊師の体が振動し始めたのです。その日の振動は、もう尋常ではなくて、体がゴムまりのように、ボンボン縦に移動して、縦に跳んだと思ったら前に進んだりとか、横に進んだりとか、すごい勢いで跳ねていました。

あっけに取られてそれを見ていたら、突然フッと静まったのです。その瞬間に、スーッとお尻から浮かれて、地上三〇センチくらいのところにピタッと止まりま

した。秒数にしたら三秒くらいでした。そして降りるときも、スーッと静かに着地したという感じでした。

もうわたしたちは皆「ワーッ」と驚いてしまいました。それが、空中浮揚を最初に見たときの状況です。

その後、何回かそんな状態があって、徐々に飛距離が上がっていきました。最初見たときは三〇センチくらいでしたけど、五〇センチ以上上がるようになりました。また、静止する時間も延びてきたのです。

中でも驚くのは、跳ぶ瞬間がよくわからないということです。脚で床を蹴る気配もなく、気がつくと浮いてしまっているのです。また、高く上がったときの方が、着地するときの音が小さいということも不思議に思えます。力で跳び上がるのでしたら、そんなことは決して起きませんよね。

また、空中浮揚が起きるときには、場の雰囲気が変わって、そこの磁場が変わるみたいです。隣の部屋からわたしたちは見ていたんですけれども、尊師の体を



『ウータン』（上）を初めとして、様々な雑誌に掲載された尊師の空中浮揚。
ジャーナリストたちも尊師の超越神力に驚嘆した。

ジーッと集中して見ていると、白い光が放射状に発散していくのがわかりました。たぶんあのまま、激しい修行をお続けになっていたら、何メートルもの空中浮揚もおできになっていたと思います。この前後から多くの人々にシャクティーパットをおやりになってエネルギーを移入されていて、膨大なエネルギーロスをされていましたので、尊師の空中浮揚はそのころだけでした。その後、弟子たちの多くがダルドリー・シッディを行なうようになった事実を見ると、尊師のエネルギーが弟子たちに流れていることがよくわかります。

（キサーゴータミー）

◉空中歩行

八七年の和田平でのセミナーのことです。『マハーヤーナ』の写真撮影のため、わたしたちは山頂に向かっていました。四時からキャンプ場で質疑応答が始まる

ため、あまり撮影の時間がなく、みんな気がせいていました。

「皆さんを待たせては申し訳ないから急ごう。」

そう尊師はおっしゃると、木の葉が風に流されるように、スーッと前へ出始めました。すると、五〇メートル、一〇〇メートルと、みるみるうちにわたしたちは引き離されていきました。途中まで走って追いかけましたが、やがて尊師は見えなくなってしまいました。

それは、足が宙に浮いている形で歩かれるのです。そして、どう見てもゆっくり歩いているとしか思えないのに、実際はものすごいスピードで、わたしたちは走らないとついていけないのです。それはちょうど、歩くというよりも、帆かけ船が風に吹かれて飛んでいったといった方が正確かもしれません。

後でお聞きしたところ、これはチベットで「風の瞑想」といわれているもので、風エネルギーをコントロールすることで身につく力だそうです。

この人間界より上の世界、天の世界の住人は地に足を着けることがないといい

ますが、まさにそれを思い起こさせるような出来事でした。

（アッサージ）

◉尊師の姿が消えた！

渋谷のマンションで修行をしていた、ある夜のことでした。

そのときは瞑想の時間で、瞑想に入りやすくするため電気は消していました。それでも、窓から射し込む街の明かりで、部屋は薄明るくなっていました。

尊師は一人で壁際に座られて、わたしたちはもう一つの部屋で尊師に相対していました。

尊師が瞑想を始めると、白とか金色のエネルギーが、だんだんと尊師の周りを取り囲んで、渦巻いていきました。ちょうどアナハタ・チァクラ（胸にある霊的センター）からそのエネルギーが出ていて、体が霞んでいきました。

そして突然、尊師の姿がフッと消えたのです。

みんな非常に驚きまして、「あれ、尊師が見えない。おかしいな」ということでぼう然としていました。

初めは、「出ていかれたのかな」と思ったのですが、小さな部屋ですから、出ていかれたのなら気配ですぐわかるので、そのようなことはありません。そのうち、尊師の姿が現われたり消えたりしました。それでは、光の加減じゃないかと思って、それを確認してもう一度目を凝らしたのですが、やはり同じでした。

わたしには尊師のエネルギーがよく見えていたのですが、そのエネルギーが首から上を覆うと、その瞬間プラーナごと、その部分が闇に溶け込んでしまうのです。そして体が見えなくなってしまうのです。

上半身だけ、下半身だけという形で消えるときと、全身が消えるときがありました。全身が消えるときは、尊師の体全体が金色もしくは白銀色に輝いたかと思うと、次の瞬間にはパッと全身が見えなくなってしまうのです。

このときは、二十人余りの前で公開したのですが、その全員が姿が消えるという奇跡を目のあたりにして、驚いていました。

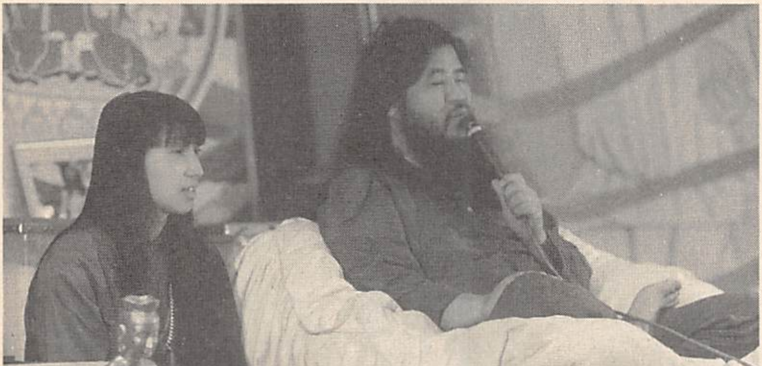
（マハー・ケイマ）

◉「気」で雨を跳ね返す

八六年の夏のセミナーのことです。

小雨の降りしきる中、尊師はわたしたちが五体投地を行なっている広場にいらっしゃり、お話をされました。わたしたちはずぶ濡れでしたが、尊師は傘も差さずに小雨に打たれていたにもかかわらず、全く雨に濡れません。もちろん服も濡れず、まるでバリヤーで守られているかのようでした。わたしたちは非常に驚きました。

そして、雨が激しく降り始めると、さすがに尊師のお体もわずかに濡れ始めました。しかし、部屋に戻ると一瞬のうちに乾いてしまうのです。



人智では計り知れない尊師の超越神力。最も古くからの弟子、マハー・ケイマ正大師（左）は、その力を数え切れないほど見てこられた。

後でお聞きしたところによると、これは神足通の前段階で、「気」の力により体の周囲の雨を跳ね返してしまうものであるということです。

（ウパーリ）

◉尊師の足は汚れない

何かの用事で尊師が道場内をあちこち回られたことがありました。その後、蓮華座でお座りになった足の裏を見て驚きました。汚れていないのです。もちろん、素足のままでいらしたし、また、わたしたちの足は大変汚れていました。

（尊師は地に足が着いていないのかしら。それとも、足がオーラか何かでバリヤーされているのかしら。）

と、わたしは非常に不思議に思ったものです。

（タントラミッター）

◉「電気抵抗ゼロ」の肉体

現在、オウム真理教の重要なイニシエーション（エネルギー移入を含めた秘儀伝授）の一つであるアストラル・テレポーター（特殊なスーパーコンピュータ）を開発しているとき、実験を兼ねて、尊師がテレポーターを使われたことがありました。そのときのことです。

尊師が、両手に電極を握られたとき、こちらのミスで電流が流れすぎてしまいました。普通なら危ないところなのですが、尊師ご自身は何ともなく、アンプの方が故障してしまいました。不思議に思って原因を調べると、尊師の肉体の電気抵抗が通常の人間に比べてほとんどゼロに近かったためだとわかったのです。

尊師ご自身は「『超電導』を起こしているではないか」とおっしゃっておられました。「超電導」という現象は、物質を構成している素粒子のうち、その中の電子が粒子としての性質を失い、完全な波動としての性質のみに変わるために起

こる現象です。もし、尊師の「肉体」が超電動を起こしたとするならば、尊師の「肉体」は波動の性質が非常に強いか、または波動そのものということになります。つまり、尊師の肉体は、普通の人間のような粗雑な物質でできているのではなく、もっと微細なものであるという推測が成り立つのです。

尊師のこのような超常性を見せられるごとに、

「オウム真理教に出家して良かったな。現在の科学なんて尊師の説き示されたヨーガ理論とは比較にならないほどの狭い分野でしかないんだ。オウム真理教で活動することによって、通常の何百倍、何万倍、何億倍もの広く大きな仕事ができるぞ。」

と、歓喜します。

（ゴーサーラ）

◉天候を自在に操る

今から三年ほど前、わたしが出家して間もないころのことです。ウマー・パールヴァティー・アーチャリーの幼稚園での運動会に尊師と同行する機会がありました。

その日は、午前中は晴れ間が出ていたのですが、だんだんと雲が出てきて、天気が怪しくなってきました。

そのときです。尊師が「ちょっと晴れさせようか」とおっしゃって、右手の人差指と中指を立てられ、腰の辺りで、グルグルと小さく円を描かれ始めたのです。すると、なんと小雨まじりで怪しげだった空模様が、雲が退いていき、晴れ間が出てきたのでした。

わたしの他にも何人かその場にいたのですが、これには「すごい!」と一同うなってしまいました。

この話にはまだ続きがあって、その後、晴れ間にはなったのですが、風が強くなり、一端、車の中へ戻られることになりました。そのとき尊師が、
「わたしが行って大丈夫か？」
と言われたのです。わたしたちは、意味がわからなかったので、「はい」とお答えし、結局、尊師は車の中に行かれてしまいました。
すると、突然それまでの天気が一変し、雨が降り出し、とても運動会どころではなくなり、運動会は中止となったのでした。中止になったことを車の中にいらっしゃる尊師にご報告したところ、
「やっぱり。わたしが戻ったからな。」
と言われました。
この一件で、天候を自在に操る尊師の神秘的な力というものを目のあたりにし、わたしは信がさらに深まりました。

（ウッジャヤ）

◉異次元の身体での対話

わたしの変化身が、尊師のお部屋をお訪ねしたときのお話です。

ある日、尊師とお話しした後、どうしてもお伝えしたいと思うことが出てきました。しかし、そのとき尊師はお忙しかったので、また次の機会にしようと思い、わたしは瞑想を始めました。

瞑想の後、シャヴァアーサナをとっていると、変化身が抜け出しました。どうしてもお伝えしたかったのでしょう。わたしの意識は変化身に移り、わたしは変化身で自分の部屋を出ました。そして、尊師がいらっしゃるお部屋のドアを開け、尊師の前に立ち、わたしの考えていることをお話ししたのでした。そのときの尊師は、座っていらして、体からまばゆいばかりの光を発していらっしゃいました。伝え終わると、わたしはドアを閉め、自分の部屋に戻りました。

すると間もなくして、電話のベルが鳴りました。それは、尊師からのお電話で、

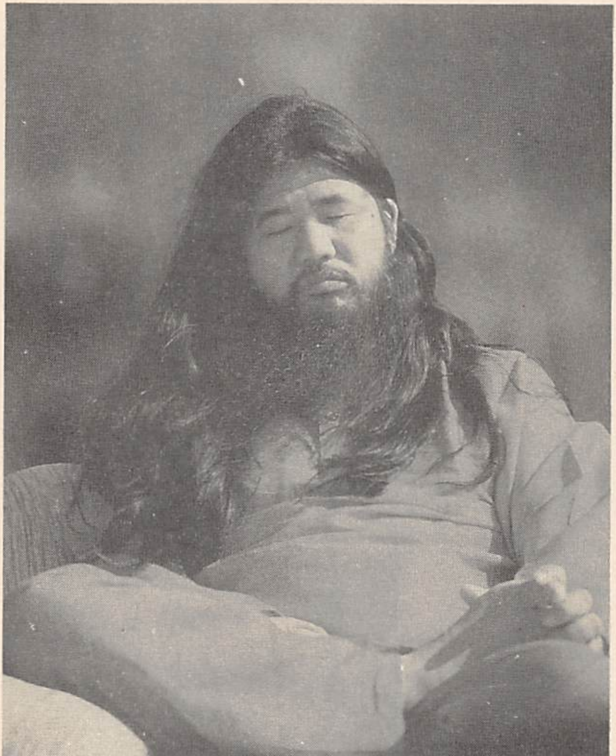
こうおっしゃいました。

「さっきここに来ただろう。ここに立って、こんなことを言ってたぞ。」

そして、尊師はわたしの話したことを復唱してくださったのです。

後でお聞きすると、尊師は自らも変化身で、わたしに対応されたということです。

（ウッパラヴァンナー）



COLUMN―1

『ヨーガ・スートラ』に見る神秘力

ヨーガでは、修行によって身につく神秘的な力を〝ジッディ〟と呼んでおり、修行の成就という意味で用いられる。つまり、仏教と同じく、そのような力は、修行をしていくに当たって必ず身につくものというとらえ方がなされているのである。

ラージャ・ヨーガの経典であるパタンジャリが著わした『ヨーガ・スートラ』には、様々なシッディが記されている。一部をご紹介しよう。

・過去と未来を知ることができる
・自分の前生を知ることができる
・他人の心の動きを知ることができる
・自分の肉体を他人に見えないようにできる
・透視したり、遠くのものを見たりできる
・宇宙の状態、真理を知ることができる
・体内の組織を知ることができる
・飢えと渇きをなくすことができる
・神霊たちを見ることができる
・他人の心を動かすことができる
・直感智を得る

- 空中を歩くことができる
- 神霊の声や小さな声、遠くの声などを聞くことができる
- 魂を肉体と切り離すことができる
- 五大元素（地・水・火・風・空）を支配することができる
- 肉体の一切の機能を意志の力で支配することができる
- 一切の事象を知る力を得る



◉頭の中の曲を聞き取る

これは、わたしが出家してまだ間もないころのことです。サティアンビルの一階でワーク（奉仕修行）をしながら、わたしは「魔法使いサリー」のテーマソングを頭の中で歌って、「この曲はなんかマントラみたいだな」とか考えていました。

次の日のことです。CSI（科学班）の朝のミーティングで、マンジュシュリー・ミトラ正悟師（せいごし）が、

「だれか昨日『魔法使いサリー』の曲を歌った人いないか？ 四階で尊師がサティアンの下の階からその曲が聞こえるっておっしゃったよ。」

と言われたのです。

日ごろから軽薄語が多くてよく注意を受けるわたしですが、まさか尊師のいらっしゃるサティアンビルの中で、アニメのテーマソングを声に出して歌ったりはしていません。

「尊師は、本当にいつも弟子のことを見てらっしゃるんだなあ。」と感心し、出家したてのわたしはとてもうれしく思ったものです。尊師がいつも見ていてくださると思うと何をするにも心強いですね。

（岡本　敦）

◉天耳界の神々の〝つげ口〟

支部活動をしていたとき、あることが原因で大変タマス（愚鈍な状態）になってしまいました。しかし、そのときは、そのことが自分の状態の原因だとは気づいていませんでした。

わたしが愚鈍な状態に陥っていることを察知なさった尊師は、電話で何回かわたしにアドバイスや叱咤激励をしてくださいました。そしてあるとき、電話で、

「どうしてそんなにタマスな声をしているんだろうなー。」

と言いながら、電話を切られたのです。
果たして、六時間後——。再び電話がかかってきて、カミナリが落ちました。
「コラー、お前のタマスの原因がわかったぞ！　○○○をしているだろう。天耳界の神々が教えてくださったんだ！」
ものすごい剣幕で、わたしの無智を吹き飛ばしてくださったのです。
一瞬、状態を指摘してくださった感謝の気持ちと天耳界の神々に「つげ口された」という思いが交錯しましたが、やはり自分の無智が原因であるので、ザンゲをさせていただき、即その原因を断ちました。
上から下はよく見えるのだということをあらためて知らされてしまいました。
いつも神々に観察されているのかと思うと、複雑な気分です。

（アッサージ）



弟子たちは、尊師に対して深い信頼と敬愛の念を寄せている。

◉ひそひそ話も隠せない

八九年の年始の集中修行のときでした。わたしは、ビバリータ・カラニーという行法の最中に隣の人としゃべっていました。

「ＵＦＯはどこから来てるんだろう。」

「阿修羅とか天界からだろう。」

「でも、ＵＦＯは低位アストラルに属するという説法があったよ。」

「阿修羅も天界も低位アストラルじゃないか。」

「あ、そうか。」

……と、話の内容はこういったものでしたが、わたしも隣の人も小声でボソボソしゃべっていました。ですから、この会話は周りの人には聞かれていなかったと思いますし、ましてや尊師が聞かれているなんてことは絶対にあり得ないことでした。しかし、次の日の説法で尊師は、

「天界の構造について、信徒の方の中に誤解があるようだから、ここで説明しておこう。」

とおっしゃって、わたしたちの疑問にズバリと答えられたのです。わたしも、隣の人も本当に驚いてしまいました。

（秋野　裕）

◉寝ていてもすべてを把握

スースー寝息をたてて、尊師がお休みになっている横で、小声でひそひそと話をしていました。そしたら、突然目覚めて、その内容に対する的確な指示を出されれ、再び、スースーとお休みの状態に戻られました。肉体は休んでいらしても、意識は完全に目覚めていらっしゃるのです。さすが尊師、とわたしは感心してしまいました。

（タントラミッター）

COLUMN—2

聖者からの言葉

尊師のステージの高さは、チベット仏教の高僧、インドヨーガの聖者、スリランカ上座部仏教の高僧などから絶賛されている。その一部をここに挙げたい。

・カムトゥール・リンポチェ師
(チベット仏教ニンマ派の高僧)

「イェシェ(完全なる絶対なる神の叡智の意)のステージです。完全にあなたの生きている意味合いは、衆生を済度(救済)するためです。」

・ダライ・ラマ十四世
(チベット仏教総帥)

「あなたはボーディ・チッタ(覚者〈仏陀〉の心)を持っています。」

・故カール・リンポチェ師
(チベット仏教カギュ派総帥)

「皆さんは偉大な仏教の師に巡り合い、教えを受けています。それは皆さんのグル、麻原彰晃尊師です。

もし、皆さんがこの機会を利用して、法を修行し、解脱を得なかったならば、将来、数知れない未来際においても再び同じような法に巡り合い、師に巡り

合うことは非常に難しいでしょう。」

・カルサング・イエシェ氏

（ダライ・ラマ法王宗教文化局長）

「麻原尊師は、優れた宗教およびヨーガの指導者であり、瞑想に熟達されている。」

・グナロカ会長

（南スリランカ福祉協会会長）

「尊師が世界を救うことのできる唯一の人であり、オウム真理教が世界を救うことのできる唯一の宗教です。」

これらの人々は、いずれも煩悩（ぼんのう）を滅する修行を志し、高いレベルに到達した修行者である。だからこそ、尊師のステージがわかるのである（詳しくは『聖者誕生』〈オウム出版〉を参照）。



◉思わず身がすくんだ超越神力

八八年二月、第一回目の水中エアータイト・サマディのための極厳修行で、富士山の近くのとある場所に尊師がこもられていたときのことです。

わたしとある男性サマナは、尊師のお世話ということで、近くの別の棟に待機していました（このとき、尊師との連絡は部屋においてある無線機だけでした）。

雪の降る冷え込みが一段と厳しい日、数日前からトゥモを起こし寝ていた男性サマナは、足元もフラフラで苦しそうだったのですが、信徒である彼女への執着が切れず、どうしても外へ電話をしに行くと聞きませんでした。ジャンパーをはおり、部屋のドアを彼が開けようとした瞬間、今まで静かだった無線が部屋中に鳴り響きました。

「どこへ行くんだ！　死ぬぞ！」

と尊師の厳しいお声。わたしたち二人はぴたりと動きが止まってしまいました。

わたしたちの会話、彼の行動など離れている棟の尊師には絶対わかるはずがないのに、なんというナイスタイミング。わたしたちは尊師の超越神力のすごさに身がすくんだのでした。

（タントラウッタマー）

◉空腹感までわかってしまう

同じく尊師のご修行中のときのこと。尊師のお食事を作りながら、わたしは「ああ、おなかがすいたな」と思っていました。すると、急に尊師から「急におなかがすき出した。もしかしたら食事の用意をしているのではないか。おなかがすいたなと思って作らないように」と連絡が入ったのです。

わたしは毎日不定期に食事を作っていましたし、そのとき食事の用意をしていることなどご存じないはずなのに……。まして、わたしの空腹感などだれも知ろ

うはずがありません。こんなことまで見抜かれてしまうとは、さすが尊師です。

（タントラウッタマー）

◉言い出しにくいこともズバリ伝わる

「これだけは、ぜひ聞いていただきたい」と思うことがありました（でも、それはなかなか口に出して言いにくいことでした）。そのとき、たまたま尊師にお目にかかる機会があり、わたしは話をしながら、

（今のこの話が終ったら言おう。また、このお話が……。）

と思っていました。しかし、勇気が出ず、とうとう最後まで言い出せなくて、

（あーあ、やっぱり言えなかった。）

とがっかりして、あいさつして戻ろうとしたとき、

「○○なんだろう。」

と、突然尊師が、心の中で思い詰めていたことをズバリとおっしゃられたのです。わたしはもう驚きと喜びで思わず涙があふれるほど感激しました。口に出さなくても、すべてをわかっていただけるその力――。言い出しにくいことがあるときは、なおさらありがたい超越神力だと思いました。

（タントラミッター）

◉すべてはお見通し

第二回目の年明けの集中修行でのことです。

このときは、何百人もの人が参加し、熱心に修行していました。三時間のビバリータ・カラニーの間、指導に回っておられた当時のA正悟師とB正悟師を比べて、

（A大師〈当時は、正悟師ではなく大師というタイトルでした〉は理知的だけど、

ちょっととっつきにくいなあ。B大師は話しやすくて兄貴みたいな感じだなあ。わたしは、どっちかというとB大師の方が好きだな。）などとたわいのないことを考えていました。すると、壇上でわたしたちの修行を見ておられた尊師が突然、

「Bは好きだけど、Aはあまり好きじゃないと思っている人がいるなあ。」

と話し出されてびっくりしました。

また、同じビバリータ・カラニー中に、隣の人がさかんに話しかけてくるので憤りを感じていたのですが、やはり壇上におられた尊師が突然、

「隣の人など気にしないで、自己の修行に集中するように」と言われ、またびっくりしてしまいました。

こういうこともありました。修行中、一日だけシャヴァアーサナをとっていても気がたって、眠れずにいた日があったのですが、その当時睡眠時間に非常にこだわっていたわたしは、

（このまま眠れなかったから、明日から体がもたない。）と思って焦っていました。すると、その日に限って尊師が急に出てこられて、壇上に上られ、今まで聞いたことのないマントラを唱え始められたのです。その瞬間、不思議なことにイラだっていた気持ちが安らぎ、深い眠りに入ることができました。

この修行は、何度もグルの偉大なる力を感じることができた貴重な体験でした。

（池口芳樹）

◉尊師は何でも知っている

八八年五月の水中エアータイト・サマディに参加した際、尊師の超越神力に大変驚かされました。

このとき、信徒全員に修法されたイニシエーションのまんじゅうが配られたの

ですが、それを五個全部食べるように言われました。
しかし、わたしは三個までしか食べず、後で食べようと思っていました。すると、尊師は、
「まだ全部食べていない人がいるから待っていよう。」
と言われて、待っていらっしゃいました。わたしはそれでも、こんなに人がたくさんいるのだから、食べていようがいまいがわかるわけないと思い、そのまま食べませんでした。
その後、祝福の時間になり、わたしの順番がやってきました。尊師はわたしの頭頂に手を当てられエネルギーを注がれていたのですが、しばらくして一言、
「まんじゅう、ちゃんと食えよ！」
とおっしゃったのです。わたしはどきっとして、もう驚いてしまいました。
（何でわたしが食べなかったことがわかるのだろう。何百人も人がいるのに。そんなこと確かめられないのに。）

と。尊師のすごさを目のあたりにしたのです。本当に尊師は何でもわかっていらっしゃるんだなと思いました。

（ヴァジラディーラー）

◉何も言わなくても的確な指示

尊師からワークを命じられ、急きょ富士から大阪に行くことになったときのことです。夜遅く、新富士駅で新幹線を探したのですが、もう既に新幹線はなく、わたしは途方に暮れて尊師に電話をしました。すると、電話に出られた尊師は、こちらが何も言っていないのに、いきなり、

「○時○分の鈍行に乗り、名古屋で一泊すればいいじゃないか!」

と言われたのです。もうびっくりしたのなんの……。

言われたとおりにしたところ、スムーズに事は運び、わたしは時間をロスする

ことなく、無事大阪に着くことができたのでした。

（伊宮義仁）

◉救済者の厳しさを諭す

クンダリニー・ヨーガを成就して、一週間ほど経った日のことです。
その日はカルマを受けて非常に疲れていて、深夜セミナーのとき、どうしても目を開けていられず、その場を離れ、道場の隅の方でついうとうととしてしまいました。そのときです。突然、
「尊師からお電話です。」
というサマナの声。はっとして電話口に出ると、
「どうだ、頑張ってるか。」
と、尊師のお声が聞こえてきました。そのお言葉に少し後ろめたさを感じながら

も、わたしは、ついつい、
「自分なりに精一杯やってるつもりです。」
などと答えてしまいました。すると、尊師は強い口調で、
「なんだ、そんなことで頑張っていると言えるのか。寝てばっかりいて、精一杯だと言えるのか！」
とおっしゃったのです。わたしは恥ずかしくなり、
「申し訳ありません。」
としか言えませんでした。
「師として何をやらないといけないのかよく考えてしっかり頑張れ。」
という尊師のお言葉に、
「はい！」
と答えましたが、
（あー、やっぱり尊師はすべてお見通しだな。）

とあらためて感じざるを得ませんでした。そして、どんなに自分が疲れていようと、どんなに苦しかろうとも、自らを投げ出して救済にあたっていらっしゃる尊師の偉大さというものを思い、

（よし、わたしももう自分はないんだと思って飛び込んでいこう！）

と決意したのです。

（タントラジェーンティー）

◉タイミングが良すぎる尊師の電話

尊師の超越神力をかつて本で読んだり、人づてに聞いたりして、素晴らしいとは思っていたのですが、間近に実際に見、経験することによってその信は絶大なものとなりました。

まず、思い浮かぶものとして、尊師からの電話のことがあります。尊師からの

電話は実にタイムリーで、たまたま電話の前を通り過ぎるとき、いつもベルが鳴るのです。それは電話の近くにいるときかかってくるというのではなく、歩いていて物理的に電話の真ん前に来たときにベルが鳴るのです。

そして、その内容も、もちろん尊師からの用件であったりすることもありますが、こちらがワーク上で「困ったなー」と思った途端に電話がかかり、「どうした?」といかにも状況の流れを目の前にされていたかのように話されることもたくさんあるのです。

時には、非常に心が屈折していたとき、その思いを浮かべた瞬間に電話が入り、そのことを指摘され、今なすべき修行上のアドバイスをいただいたこともありました。

（シァーキニー）

◉まざまざと見せつけられたパワー

わたしが出家をする前のことです。名古屋支部道場で、ある師とわたしの出家について話をしていました。わたしはそのとき、出家したいのはやまやまだったのですが、自己の能力をつくづくと考え、本当に何の能力、技術、資格のない自分にため息が出て、「何の能力もないし、何の役にも立てないので、足でまといでは……」などと言っていました。

それから、数日してからのこと。イベントがあって控え室で尊師とお会いしたとき、いきなり尊師が、

「中田さん！　わたしも何の能力もないんですよ。」

と言われのです。ぎょっ！　としました。富士か東京にいたはずの尊師が、何で一信徒にすぎないわたしの言葉や思いを知っているのだろうと……。

もしやと思って、後でそのときの師に、「わたしが『自分には何の能力もない

ので……』と言っていたことを尊師におっしゃいましたか?」と聞いてみましたが、当然、何のことかと言わんばかりの顔で、「いいえ」と言われました。
　また、イベントやセミナーの最中に、
(わたしなんかでも成就して、上へ上がっていけるのかな?)
と思っていると、急に尊師が、
「中田さん! タントラで成就できますよ。」
と言われ、キョトンとしていたこともありました。
　こういったことが二、三度あり、尊師の人の心を見抜く力のすごさをまざまざと知らされました。

(中田清秀)

◉すべてを映し出す透明な鏡

尊師は常にわたしの心を把握していらっしゃいます。

例えば、出家して一年ぐらい、わたしは、心の中にあるわけのわからない寂しさ、情の引っかかりに苦しみ、いつもそれを隠していたのですが、尊師にお会いすると必ず、

「チャーラーの心の中に寂しさがあるね。」

とか、

「寂しさはどうして起こるか考えなさい。」

などと言わました。今はもう修行によってそんな想いは消えてしまったので、言われなくなりましたが……。

もちろん、これはわたしに限ったことではなく、わたしは尊師のおそばでワークをさせていただいているのですが、すべての弟子の状態を完璧につかんでいらっ

しゃるのです。それはまさに、すべてを映し出す透明な鏡といわざるを得ません。

（チャーラー）

◉心の揺れをピタリと止める

煩悩に心が揺らされ、つらくていたたまれなかったときのことです。わたしは、「明日の朝、還俗しよう。」とんでもない決心をしてしまいました。その直後のこと。突然電話のベルが鳴り、尊師からお電話がありました。

驚いたことに、尊師はそのときのわたしの状態をわかっておられました。そして、そういう心の状態に陥らないようにするにはどうしたらいいかアドバイスしてくださったのです。

グルの神秘的なエネルギーによって意識がポアされたのでしょうか。電話を切っ

たとき、わたしの心は晴れ晴れとして、下向しようなどという気持ちは全くなくなっていました。

（ラーキニーナンダー）

◉どこにいても弟子を見守る

富士でワークをしていたときのことです。マンジュシュリー・ミトラ正悟師から急ぎのワークの指示があり、ヴァジラアバヤ師、サンジャヤ師とわたしの三人で協力して行なうようにということでした。

このワークのために、車でドラム缶を数個上九一色村（かみくいしきむら）まで運ぶ必要がありましたが、あいにく三人共免許を持っていません。そこでCSIをはじめ、他の部署に使ってよい車があるか、車の運転ができる人がいるか問い合わせたのですが、車も人も余っていません。急ぎのワークなので、本当に困ってしまいました。こ

んなとき尊師ならどうされるだろうと思いながら、尊師を意識して座法を組み、グルヨーガの瞑想を始めました。心の中でマントラを二回ほど唱えたとき、電話が鳴りました。出てみると、なんと尊師からです。

「どうした、ワークがうまくはかどっていないのか？」

こちらが何も申し上げていないのに、いきなりこうおっしゃり、びっくりしてしまいました。

（どうしてわかったんだろう？）

と思いつつも、即、事情をお話すると、

「わかった。わたしの方から車両班に連絡をしておく。」

とおっしゃって、車と運転手を手配してくださいました。

このとき初めて、グルはどこにいてもいつでも弟子を見守ってくださっているということを実感したのです。

（ラッキタ）

◉だれも知らないはずの設計ミスが……

丹製造装置を設計・製作しているとき、ある部品の形状を鏡面対称に図面化して作ってしまいました。わかりやすくいうならば、裏表逆に作り間違えたようなものです。わたしは、

（あーあ……。）

とがっかりして、一人で作り直していました。ちょうどそのときです。尊師から電話がかかってきて、いきなり、

「部品間違えて作っただろう。」

と言われたのです。

（何でだれにも言ってないのに、わかるんだろう?）

と本当にびっくりしてしまいました。

（ゴーサーラ）

◉見抜かれた心の乱れ

ガンの患者さんの治療に追われていたころ、急に尊師より、そろそろ極厳修行に入るようにとの知らせがきました。極厳修行といえば、成就という魂の最高の状態を目指して自分の限界まで修行しなくてはならない厳しい修行です。わたしはまだ心の準備ができておらず、また自分の弱さを自覚していたので非常に不安にかられました。ところが、そう思ったとたん、尊師から直接お電話があり、

「どうした、心を乱しているじゃないか。しっかりしなさい。」

と言われてしまったのです。わたしは、

(尊師は、いつもわたしを見守ってくださっているんだ。)

という安心感が出てきて、すっかり修行への不安感が消えてしまいました。そして、今の自分の全力を尽くして、修行に励もうと決心したのです。

(立田秀明)

◉衝撃的な超越神力

わたしは出家してから、建築関係のワークにつき、毎日一生懸命建築の仕事をしていました。そうやって建築のワークをしていたのですが、わたしは、実はずっと心の中で、「支部に行って、支部活動をして、尊師の救済活動のお手伝いをしたいな」と思っていました。しかし、もちろん、そのことはだれにも言うことはありませんでした。

八七年の末に極厳修行に入り、ラージャ・ヨーガを成就してから、念願がかなって仙台支部配属になりました。わたしは、うれしくてうれしくて、「頑張らなくては」と張り切っていました。

数カ月後、道場開きがあって、初めて尊師をお迎えするのに駅まで行き、車の前で待っていました。すると、尊師ご一行が歩いてこられたのですが、そのとき尊師は開口一番こうおっしゃったのです。

「どうだ、クンダダーナ、お前の目指していた支部活動は。」

わたしは、そのときは舞い上がっていて気づかなかったのですが、後でよくよく考えてみて、

(何で知っていらっしゃるんだろう……。)

と不思議に思いました。わたしが支部活動をやりたがっていたことは、だれにも言っていないので、尊師が知っておられるはずはないのです。

このとき、初めて尊師の超越神力を実感しました。今になってみれば、このくらいのことは日常茶飯事で特に珍しいことではないのですが、わたしの脳裏に衝撃的に刻み込まれている一つです。

(クンダダーナ)

◉尊師の前では演技できない

わたしが富士の事務所でワークをしていたときのことです。その日は心の状態が悪く、とても明るく対応する気になれませんでした。しかし、昔からつらいことがあっても嫌なことがあっても、「人前では常に明るく」を意識していたわたしは、その日も無理して明るく振るまっていたのでした。

苦しさをこらえてワークをしているうちに、内線電話が鳴りました。出てみたら尊師です。

「無理に明るくしようとしているんじゃないのか。」

尊師は、開口一番そうおっしゃいました。全くそのとおりです。

何も言っていないのに、わたしの心の状態を性格に言い当てられる尊師はすごいと思いました。このことによって、わたしは、ますます信を深めたのです。

（細川美香）

◉安心してついていける

尊師のお持ちになっている超越神力の中で、特によく目にするのは弟子の状態を正確に把握する能力です。しかも、どんなに離れたところにいてもピタリと見抜かれてしまうから驚きです。わたしも何回かそんなことがありました。

一度、親から電話がかかってきて、口論となり、心が乱れたときがあったのですが、その直後、尊師から電話がかかってきて、「どうしたんだ。心が乱れているじゃないか」とズバリ言い当てられてしまいました。

また、これはつい先日のことです。尊師にかけられたマハー・ムドラーによっていつになく心の不安定なときがあったのですが、そのとき珍しく尊師の方からお電話があり、ワークの内容について尋ねられました。少し会話をして電話は終ったのですが、よく考えてみるとこれも不思議なことで、そのワークについてはいつも尊師はある師の方にいつもお電話をされていたのですが、そのときに限って

わたしを指名されたのです。

たぶん、わたしの状態が悪いので、心配してお電話してくださり、実際話してみて大丈夫だと判断されて、その内容に触れずに電話を切られたのだと思います。

この他にも、心の状態についてコメントされるのはしょっちゅうで、しかもそれが見事に当たっています。このように、わたしたちの状態を正確に見抜かれ、また的確に指導してくださるので、わたしたちは安心して麻原尊師についていけるのだと思います。

（スッカー）

◉電話の声だけでズバリとわかる

わたしがシステムでワークをしていたころのことです。尊師がシステムに電話をかけてこられました。そのとき、たまたまわたしが出たのですが、こちらの名

前を言うと、いきなり、
「橋野さんは、心にやましいことがあるんじゃないか!?」
とおっしゃられたのです。まさにそのとおり。わたしは食の破戒をしたこと、その他の悩みで心が曇っていたのです。
わたしは、そこで食の破戒についてザンゲさせていただきました。尊師は「ハーッ」とため息をついていらっしゃいました。電話の声を聞いただけで、ズバリと人の心の中がわかってしまう。さすが尊師ですね。
（橋野まゆみ）

◉修行しないと叱ばれる

わたしは、オウム真理教附属医院で受付をしています。そのため、電話に出るのも重要なワークの一つなのですが、あるとき尊師の思いもよらぬ言葉にびっく

りしてしまったのです。
出家して間もなく、オウム真理教附属医院に配属になったわたしは、慣れないワークに振り回されて、修行もろくにできず、というよりはせず、教学さえも『マハーヤーナ』を少し読む程度でした。それが、しばらくすると、そのわずかな教学さえもやらなくなってしまいました。
そんなときです。受付にいたわたしは、電話のベルが鳴ったのでいつものように、
「はい、オウム真理教附属医院です。」
と電話に出ました。すると、それは尊師からでした。
「あー、根深さんか。何だか元気がないな。」
と尊師。
「いえ、そんなことはないと思うのですが。」
わたしがそう答えると、尊師はなんと、

「どうだ、教学をやってないないんじゃないか。」
とおっしゃったのです。わたしはビクッとして、返す言葉もなく、
「申し訳ありません。」
と小さな声で答えるのがやっとでした。次の瞬間、
「駄目じゃないか、教学しなきゃ。」
とお叱りの言葉を受けました。
(どうして教学をさぼったことが電話でわかってしまったのかしら?)
その電話を取り次いだ後も、わたしの胸は早鐘のように鳴っていました。
それからというもの、何をしていても尊師は知っている、見ていていらっしゃると思うと、煩悩的になっては怖がっているわたしです。

(根深久美)

◉百人の弟子を見る〝百個の目〟

尊師は弟子が百人いれば百個の目を持ち、一人一人のことをいつもわかってらっしゃるとよく先輩方からも聞いていたのですが、本当に尊師はいつでもわたし自身の心の状態、行動を理解されています。「調子がいいな」とか「修行していいな」などと、どきっとするほど状態をぴたりと当てられます。特に、わたしが煩悩に心を揺らし、苦しんでいるときなど本当にタイミングよくお電話をいただいたり、バッタリとお会いして、適切なアドバイスをいただいたりするのです。

(尊師はすごいなー。)

と心の中で思っていると、尊師いわく、

「わたしはタイムリーだろ。」

もう「ははーっ」という感じです。

(タントラウッタマー)

COLUMN—3

超越神力は〝世尊〟の条件

仏教でいう「世尊」とは、この世において最も尊ばれる魂という意味である。この「この世において」というのは、人間界だけを指すのではなく、天界、形状界（色界）、非形状界（無色界）の神々のすべてを通して最も尊ばれる魂ということである。仏典では、サキャ神賢（釈迦牟尼）に対して、世尊という言葉を使っている。

そして、この世尊は、「十の真理勝者の能力」「四つの完全な自信」「四つの分析」「六つの証智」「六つの覚者の法則」、このすべての法則を完全に自分のものとし、そして内在している魂であると仏典には記されている。

これらの法則の一つ一つを説明すると、膨大な文量になってしまうので詳しいことは『タターガタ・アビダンマ第一誦品』（オウム出版）を参照していただきたいが、この「六つの証智」、これがまさに「六神通」のことである。つまり、天耳通、他心通、宿命通、死生智、漏尽通の六つの超越神力を指しているのである。

言い換えれば、この六神通は世尊の条件の一つということになろう。

◉過去世の記憶で現在を知る

サマディに入って多くの過去世を思い出すことのできる超越神力を宿命通といいますが、尊師の宿命通がまさしく本物だと実感したエピソードがいくつかあります。

一つはチベットに行ったときのことです。尊師は、

「ガンデン宮殿へ行きたい。ガンデン宮殿はデプン寺と同じ場所にあるはずだ。」

と言われていました。

しかし、ガイドブックを集めてルートを検討していた正悟師たちは、

「そんなところにはないですよ。」

と言うし、実際わたし自身がガイドブックを見てみても、違う場所に書かれているのです。

ところが、実際にデプン寺へ行ったら、そこにガンデン宮殿があったのでした。

尊師によると、同じ場所にあると知っていたのは、過去世の記憶があったからだということでした。ガンデン宮殿は、ポタラ宮が建てられる以前にダライ・ラマ五世が住んでいた宮殿なのですが、尊師は当時チベットに転生されていたのだそうです。

同じように、エジプトでも尊師はわたしたちをびっくりさせました。オウム真理教は古代エジプトの秘儀をも導入しているのですが、最古のピラミッドといわれているジュセル王の階段ピラミッドを訪れたときのことです。尊師が、
「これは、わたしがアインファテプという名の宰相だったときに建造したものだ。」
と言われ、玄室の位置から入口、葬祭殿の位置、それらの使用目的に至るまで、過去世の記憶にしたがって説明されたのでした。

当時、既に尊師は視力をほとんど失っており、事前にそんなことをお一人で調べることなどおできにならないということは、そこに居合わせただれもが知っていましたので、尊師の宿命通のすごさに感じ入ったものです。

後でその宰相のことを調べてみたところ（現代では、彼の名をイムホテップと発音していますが）、尊師と同様にあらゆる知識に通じた万能者とされていたので、あらためて尊師はイムホテップであられたんだなと思いました。

その他にも、尊師が宿命通によって思い出された過去世の記憶に従って、地形や宗教、風俗、産業などを調べてみると、そのとおりだったということが数限りなくあります。

（ヤソーダラー）

◉レントゲンより正確な尊師の〝目〟

わたしは、出家する前、病院に医師として勤めていたのですが、出家してからは医学的常識を超える尊師の神秘力を度々目のあたりにし、驚いています。

例えばこんなことがありました。信徒のAさんはガンだったのですが、ある大





過去世の記憶によって、尊師は真実を知られた（下はガンデン宮殿）。

病院からの紹介状には、転移についての記載はありませんでした。
ところが、彼が尊師のシークレット・ヨーガ（個人面談）を受けたとき、
「もともとのガンの位置の他に、右の肺にも陰がある。何かそこにないか。」
と尊師がわたしにお尋ねになるのです。
「いえ、特に聞いていませんが、転移でしょうか。」
とお答えすると、
「そうだね、その可能性があるね。」
とのこと。あとで同僚の医師に聞いてみると、
「そういえば、前の病院の医師は、『紹介状には書かなかったんですが、胸のX線写真で、右の肺にごく軽度の異常があるような気がする。これは何かなあ。調べてみてください』と言っていました。」
と言うではありませんか。
そして、シークレット・ヨーガの数日後に胸のCTスキャンを撮ると、やはり

右の肺にごく小さなリンパ節転移があるのがわかったのでした。

こういうこともありました。あるとき、信徒のガン患者のBさんが突然意識を失って亡くなりました。臨床症状から、

「直接の原因は左の脳からの出血だと思います。」

と申し上げると、

「前日から出血していたのではないか。」

とおっしゃいます。わたしたちの考えもまさにそのとおりでした。

また、尊師が、そのBさんをポアする際に、

「右の胸あたりに転移がないか。Bさんが亡くなったのにはこの病巣に大きな関連があるんじゃないか。」

とおっしゃったのですが、確かに、その病巣のせいで肺の中に水が溜まり、Bさんは大きく衰弱したのです。もちろん、尊師はその患者を直接診察されたことはありませんし、その病巣についてはこちらがお話ししたこともなかったので、一

同驚いてしまいました。

このように尊師は最新の機器を使わなくとも、その超越神力によって現代医学と同等以上に患者を正確に見つめることができるのです。

（ヴァジラティッサ）

◉弟子の不調をヴィジョンで見る

八九年の六月のことです。解脱を目指して出家し、ひたすらワークに励んでいたわたしは、このとき珍しく調子が悪くなっていました。毎日下痢が続き、心は不安定で苦しい状態で、クリヤ・ヨーガをやったり、マントラ・テープを聞き続けたりして、なんとか状態を元に戻そうと努力したのですが、良くなりませんでした。

どうしてよいか自分でもわからず、一人で悶々とした日々を送っていたとき、

突然、キサーゴータミー正悟師から、こう言われたのです。
「尊師よりお電話があり、
『ウッティヤが調子を崩しているヴィジョンが見えるので、グルを意識するように。』
ということです。」
そのころ、尊師はご自身の修行に専念されており、そのエネルギーをご自分に向けられているので、いつものように意識しなくても弟子にエネルギーが送られてくるというわけにはいきません。弟子が自分から意識しないと、エネルギーが与えられないのです。わたしの不調はグルを意識していないがためのものだったのです。
わたしは、離れたところにいながら弟子の状態を把握するグルの神秘力に驚くとともに、いつもはグルがわたしたちに神聖なエネルギーを送ってくださっているのだということを痛感しました。そして、グルを意識するように努めると、わ

たしの状態は徐々に良くなっていったのです。

（ウッティヤ）

◉予知されていた交通事故

「『これから、シァーキニーは上九（オウム真理教の道場のある場所の一つ）まで運転をするな』という尊師からのご指示です。」

とマンジュシュリー・ミトラ正悟師から伝言があったのは、車で上九から富士の道場に戻ってきた矢先のことでした。

「特に調子が悪いわけでもないし、運転もいつもと同じつもりなんだけどな」

と思いつつ、わたしはあまり気にもとめずに、「はい」と返事をしました。

そして、翌日。尊師が出かけられるということで、ある師の方から、

「シァーキニーさん、すぐ上九に行って、尊師のクルタを持ってきてくれない!?」

と言われました。昨日のことは頭の片隅にあったものの、尊師の出発が遅くなったら大変だし、そのときの状況からしてもクルタを持っていけるのはわたしだけだったので、わたしはキーを持って階段を駆け降り、車に乗って走りました。

上九までの道のりは決してスムーズではありません。カーブが多く、道は細く、十トンダンプが頻繁に通ります。「急がないと、遅れたら大変」という思いで走り続けると、急カーブに差しかかったところで、十トンダンプがかなりのスピードでこちらに向かってきました。「危ない!」と思ったわたしは、それを避けようとぎりぎりのところで止まったのですが、その十トンダンプは、わたしの車のドアミラーにぶつかってしまったのです。十トンダンプはそのまま走り去っていきました。

帰ってから、尊師の耳に事故のことが入るまで時間はかかりませんでした。尊師は、「やっぱり」とおっしゃられ、

「だから言ったでしょ、シァーキニー。だからグルが必要なんだよ。」

の屈折を指摘してくださったのです。

と、怒りもせずにおっしゃいました。そして、その事故の原因であるわたしの心

（シァーキニー）

◉尊師の予言に間違いはない

「車の事故に気をつけろ。」

その日に限って尊師がこうおっしゃったとき、わたしはあまり気にも止めませんでした。それまで事故に遭ったことなどほとんどなかったからです。

しかし、一応運転手には、

「珍しく尊師がそういうことをおっしゃってたから、気をつけて。」

と言っておきました。運転手は、当然、

「はい。わかりました。」

と元気よく返事をしたのです。
(まあ、大丈夫だろう。)
わたしは高をくっていました。
ところが——。やはり、その日、はからずも事故が起こってしまったのでした。帰りの首都高速でのことです。前の車がいきなり止まったため、こちらも急ブレーキを踏んで止まり、その影響を受けて後ろの車に追突されてしまったのです。
「ほら、言ったとおりじゃないか。」
事故の報告を受けた尊師はこうおっしゃいました。やはり、尊師のおっしゃることに間違いはないものです。

(アーナンダ)

◉ヨーガ理論で見通すトラブルの源

あるとき、印刷工場の機械の故障、不具合が連発してしまい、修理が追いつかなくなりました。特に四色機とスキャナー（どちらも印刷用機械）が止まってしまい、原因を追求しても突き止められない状態が続いていました。

そのとき尊師から電話があり、「工場内の湿度と雨漏り、他の水による影響が原因のはずである」という内容の話をしてくださったのですが、わたしは観念があって納得できず、自分の技術的な見解を述べたところ、次のような説明をいただきました。

「印刷工場の人間はスヴァディスターナ・チァクラで引っかかっている者が多いから、水元素に関係したトラブルが発生するんだ。」

と。

果たして、尊師の指示どおり動いたら、原因は共に水元素に関するものだった

のです。四色機の方は紙の湿度不足による静電気発生が原因で、スキャナーの方は雨漏りによる部品の故障が原因でした。おそらく専門家でもすぐに見つけるのは難しいでしょう。機械の故障の原因を尊師は実際に見られたわけでもないのに、ズバリと当てられたのです。

また、よくよく考えてみると、そのころは雨の日が多く、雨漏りが建物のいたる所にあり、ポンプの故障によって水道が使えなくなったり、大雨で水が浸水し、紙が濡れて使用できなくなったりなど、印刷工場では、水元素に関するトラブルが続出していました。ですから、尊師はそれも見通していらしたことになります。

（ゴーサーラ）

◉ピタリと当たった故障の原因

阿蘇シャンバラ精舎を建設していたころ、わたしは重機整備班として動かなくなってしまったキャタピラ式土砂運搬重機を法友と二人で見ていました。ちょうどそのとき、近くの丘の上から尊師、ウマー・パールヴァティー・アーチャリーらが、下の方をご覧になっていらっしゃったのですが、自分は整備の方に夢中になっていて、法友が「尊師が来られている」というのに対して、「関係ないよ……」と言ってしまったのです。すると、突然「下から見れば大丈夫だよ」という尊師のお声がわたしの耳に入り、すかさず重機の下に潜り込んでみると、果たして原因はそこで見つかり、なんと重機は治ってしまったのでした。

グルの偉大さを感じるちょっとした出来事でした。

(越尾正三)

◉ザンゲする前に内容がわかる

あれは入信して間もないころ、シークレット・ヨーガでザンゲを申し出たときです。尊師は、

「では、五戒についてザンゲしなさい。」

とおっしゃったのですが、尊師はそのザンゲの内容をわたしが言う前にことごとく見抜かれてしまったのです。

まず盗みの戒についてお尋ねになりました。わたしがそれについてザンゲをしようとしたところ、

「盗みはあまりしてないんじゃないか。」

とおっしゃいました。尊師は目をつぶっておられ、わたしのある部分にじっと集中し、霊視しておられるようでした。事実、わたしは、盗みについては二、三回ごく小さな盗みをしたことがあるだけで、あまりやったことはなかったのです。

妄語についても、ザンゲする前に、
「嘘はあまりついてないね。」
とあらかじめ断言されました。これも確かにそうで、わたしはあまり嘘はつかない方なのです。
最後、わたしが最も気になっていた殺生の戒についても、今生小さな生き物に関しては、たくさん殺生してきたため、またあらかじめ尊師は当てられるだろうなと思っていると、ザンゲする前に、
「あー、殺生のカルマがあるねー。」
と急に顔色を変えられて、残念そうにおっしゃいました。そして、
「もう二度とやっちゃ駄目だよ。」
と優しくおっしゃったのです。このとき、まるで自分のことのように痛ましい顔をなさり、わたしを心から思いやり、いたわってくださっているのが伝わってきました。

わたしは、このとき本当に自己の悪業を後悔しました。そして、二度とやるまいと決心したのです。

（飯島野人）

◉〝におい〟で見抜く煩悩

尊師の超越神力といっても、一つ一つ話していたらきりがないほどですが、最近びっくりしたのは、電話で話していたときのことです。突然、

「アーナンダ、下位のチァクラのにおいがする。」

とおっしゃったのです。煩悩のにおいがすると。そして、以前はこういう状態だったのに、今はカルマを受けてこうなっているじゃないかと、わたしの状態を指摘されたのです。まさに、そのときわたしは、支部活動で受けたカルマのため、尊師の指摘された煩悩が出てきており、そして、その煩悩に対応するバルドーの光

を自分で霊視していて、危ないなと思っていたところだったのでした。
それまでにも、尊師がわたしの煩悩を見抜かれるということはしょっちゅうありましたが、受話器を通じてにおいで煩悩がわかるなんてどうなっているんだろうと不思議に思っていたら、尊師は、
「いや、アストラルでにおいがするんだ。」
とおっしゃいました。
感心しているわたしに、尊師は、その煩悩を脱却する修行法を教えてくださり、わたしはそれを行なうことによってその状態から抜け出すことができたのでした。
（アーナンダ）

◉愛深き漏尽通

尊師に、自分の心の状態、煩悩を見抜かれることはしょっちゅうですが、最近一つ印象に残ったことがあるのでお話しします。

今年（九一年）の初め、わたしは一冊の本を編集しようとしていたのですが、その内容をあらかじめ尊師に知っていただくために、本文をカセットテープに吹き込んで、お渡ししたのです（尊師は目が不自由でいらっしゃるため）。テープをお渡ししてから何日か経った後、たまたまワークでお会いしたとき、尊師はこうおっしゃいました。

「パターチャーラーの声を聞いていると、すごく嫌悪が出てくるなあ。プライドから来る嫌悪だ。」

と（もちろん、これは尊師がわたしに対して嫌悪を抱いているという意味ではありません。わたしの中に、嫌悪という煩悩があるがゆえに、尊師がそれを読み取

られたのです）。
そう言われても、わたしは、そのときピンと来ませんでした。もともと自分の煩悩を直視しない傾向があるわたしは、自分の中にプライドから来る嫌悪がそんなに強くあるとは思っていなかったのです。
しかし、尊師にそれを指摘されてからは、わたしは努めて自分の心の動きに注意を払うようになりました。
（今、嫌悪が出ていないだろうか。これは、嫌悪ではないだろうか。）と……。そして、しばらくして気づいたのです。尊師のおっしゃるとおり、確かにわたしの心の中には、プライドによる嫌悪が一日のうち何度も出てきていたのでした。
最高の超越神力、漏尽通の一つに「声によって相手の煩悩を聞き分ける」というのがありますが、まさに尊師はわたし自身でさえ気づいていなかった煩悩をわたしの声によって聞き分けていらしたのでしょう。

わたしは、自分の煩悩に気づかせてくださった尊師に心より感謝し、その煩悩を早く修行によって止滅しようと決意したのでした。

（パターチャーラー）

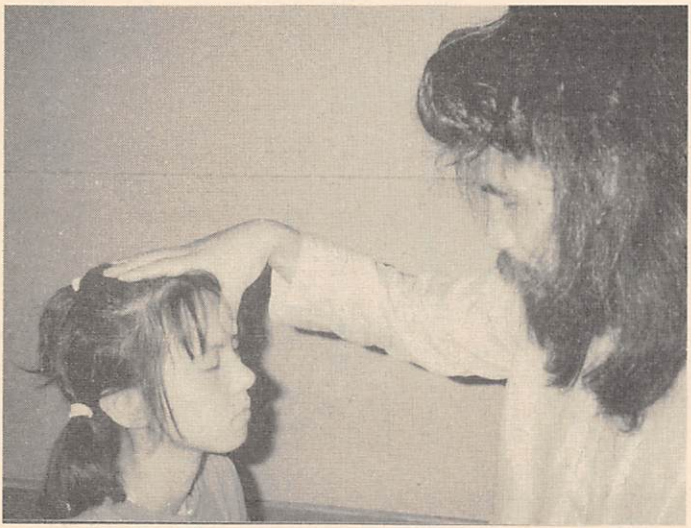
◉シャクティーパットの奇跡

わたしが初めてシャクティーパットを受けたときのことです。わたしは、高校生のころから、ときどき、心臓が痛み出すことがありました。心電図を撮っても異常は見つからなかったのですが、あまりにも痛みが激しいときなどは、病院で精密検査を受けようかと思っていたほどでした。しかし、心臓が悪いとわかってしまうと、社会生活に支障が出てしまうと懸念したわたしは、両親にも言えず、ずっと一人で悩んでいました。

しかし、シャクティーパットのとき、尊師は、わたしの額に親指を当てられた

瞬間、こうおっしゃったのです。
「心臓が痛むことはないか？」
わたしは大変驚いてしまいました。だれにも話したことはなく、心電図の異常も見られなかったわたしの心臓の状態を、ただ指で触れられただけで、理解なさったからです。
そして、シャクティーパットが終わった後、尊師は、
「エネルギーの通る道をつくっておいたから、これからは痛むことはないと思います。」
とおっしゃいました。そのお言葉どおり、わたしは、それ以後全く心臓の痛みを感じることはなくなりました。尊師が、わたしの自己保全の心の働きによるカルマを背負ってくださり、アナハタ・チャクラに詰まっていたカルマを取り除いてくださったのです。そして、わたしの長年の不安も解消されたのでした。

（ウッパラヴァンナー）



多くの奇跡を生んだイニシエーション、シャクティーパット。

◉すべての弟子を把握するその力

尊師は、現在「五大エレメントのイニシエーション」で、信徒さんに直接触れられてエンパワーメントをされていますが、このことでびっくりしたことがあります。

イニシエーションが終わった後、尊師と一緒に話をしていると、たまたま数人のサマナ（出家修行者）の話になりました。尊師は、

「○○は、ここからエネルギーが上昇している。こういったエネルギーが見える。だから、こういう部署につかせた方がいい。」

と、事細かにそのサマナの状態を指摘されるのです。しかも、それが完璧に当たっています。

その場にいたサマナは、信徒さんと一緒にエンパワーメント（エネルギー移入）を受けることができたのですが、そのサマナたちも同じくその日尊師のエネルギー

を受けていました。つまり、尊師は、十数秒程度の短いエンパワーメントの時間に、彼らの状態を完璧に見通し、記憶していらっしゃったのです。

わたしは、ただ単にエネルギーを移入されているのかと思っていたので、驚いてしまいました。しかし、これは、別にそのサマナたちに限ったことではなく、そのときのイニシエーションを受けられた方は五百名以上もいたのですが、そのすべての人の状態を把握し、覚えていらっしゃるということでした。わたしは、あらためて尊師の超越神力のすごさ、大勢の弟子を導くグルとしての力に感じ入ったものです。

なお、付け加えるなら、尊師は、全国に散らばっている信徒さんのことを実によく覚えていらっしゃいます。そして、その信徒さんの状態に何か変化があると、離れていてもすぐお気づきになり、

「〇〇さんは最近こういう調子なんじゃないか。」

と連絡されてきて、実際、会ってみるとそうなのです。尊師は、直弟子だけでは

なく、霊的パイプのつながっている信徒さんのこともすべて把握していらっしゃるのです。

（アーナンダ）

◉尊師と弟子をつなぐ神秘のパイプ

わたしはオウム真理教附属医院の医師ですが、九〇年の一月に、出家前から妊娠していたあるサマナの出産に立ち会いました。彼女は、当時三十五歳で、しかも初産でした。案の定、難産となり、分娩時間が四十八時間以上もかかってしまったのです。

そのため、分娩前は元気だった胎児も、胎便を吸入して、出産時には仮死状態でした。心臓の拍動だけはありましたが、呼吸はなく、全身蒼白で、手足は冷たくだらんとしていて、全身の筋緊張もありませんでした。

（危ない――駄目かもしれない。）
そんな思いがよぎった、ちょうどそのときです。富士にいるヴァジラティッサ師から電話があり、
「尊師が突然意識をなくされて、サマディに入られた。そちらの方で何か起こったのではないか？」
と言うのです。わたしが胎児が仮死状態になったことをいうと、ヴァジラティッサ師は、
「おそらくそのためだろう。」
と答えました。
尊師は、いつどこにいてもサマナ、あるいは信徒を見守り、アストラルを通じて助けてくださっているので、わたしは今回も尊師が胎児を助けてくださろうとしているのだと思いました。
事実、娩出後、あれだけ危ない状態だった胎児が、気管の吸引を続けたり、逆

さにして、臀部（でんぶ）を叩いたりしているうちに、呼吸をして泣き出すようになり、数時間後には蘇生してしまったのです。
この子は、現在、何の障害もなく元気いっぱいに成長しています。グルの偉大さをあらためて実感した出来事でした。
（カッピナ）

◉予言どおりの体験

尊師の超越神力で特に偉大であると感じるのは、今まで何百人という弟子を成就へと導いてくださっていることです。わたしもその一人ですが、修行中には、尊師のおっしゃるとおりにいろんな体験が起き、驚いたものです。
例えば、
「もうすぐダルドリー・シッディが起きるぞ。」

と言われた数時間後に実際にダルドリーが起きたり、また、
「こういうことが起きるから注意するように。」
と示唆を与えられて、後でそのとおりになり、
（ああ、このことだったんだな。）
と納得したりなど、そういったことが度々ありました。
本当に、尊師は弟子のカルマを漏尽通により見極め、成就までの道をしっかりとつくってくださっているんだなあとしみじみと思いました。

（タントラウッタマー）

◉弟子の瞑想状態を見極める

九一年七月のギッジャクータ山での修行のことです。
尊師に「何かあったのか？」と聞かれるときは、必ず何かの体験があるときで

す。何もなかったときは、尊師はお聞きになりません。これは、他の師の人を見ていても、やはりそのようでした。

ある日、わたしは過去世のヴィジョンをいくつか見ました。その一つに、多くの人が足を宙に浮かせながら、飛ぶようにして緑の丘を進み、ローマのコロニアムみたいなところに集まっていくというのがありました。

尊師が「何かあったのか?」と聞かれるので、それについて申し上げると、

「それはわたしの説法に行くところだよ。そのころから縁があるんだな。」

とおっしゃいました。

(尊師はやはり弟子たちの瞑想状態を完璧に把握していらっしゃるんだ。)

と、そのときは実感したものです。

(ヴァンギーサ)

◉成就までの偉大な導き

在家時代に、成就に向けて極厳修行に入らせていただいていたときのことです。当時、わたしは集中的な瞑想修行に入る前段階の準備コースの修行をしていました。ダルドリー・シッディが起これば、瞑想室に入って集中的な瞑想修行に入れるのですが、なかなか起こらなかったのです。

しかし、あるときついに立位礼拝という修行をやっていて、ダルドリー・シッディが起こりました。折しも、もう少ししたら、尊師がエジプトに発たれるというときのことです。わたしは、うれしくなりましたが、尊師はたぶんわたしがダルドリーを起こしたことはご存じないだろうなと思っていました。

そんなとき、尊師が、わたしたちの修行を見に来られたのです。わたしは、

（ダルドリーを見てもらえる！）

と思って頑張ったのですが、なぜでしょうか、そのときに限って、ダルドリーが

起こりませんでした。
（あーあ。ダルドリーが見てもらえない……。）
そう思っていると、尊師がわたしの方を向いて、
「中山さん（わたしの本名）、瞑想室に入りましょう。ダルドリーが起こったでしょう。」
と言われたのです。何も言わないのに、尊師はわたしがダルドリーを起こしたことをご存じだったのでした。
また、こういうこともありました。その後、瞑想室で、瞑想に励んでいると、ある日瞑想中光のシャワーを浴び、至福の状態にひたりました。すると、また尊師が、わたしが何も言わないうちに、
「中山さん。光がいよいよ上から降りてきましたね。解脱に近いですよ。」
と、まるで見てきたかのように言われたのです（もちろん、この体験はだれにもしゃべっていませんでした）。

この他にも、尊師はわたしの修行の状態を的確に指摘され、わたしは安心して修行に励めました。そして、その尊師の導きによって、わたしは八九年三月三日、ラージャ・ヨーガを成就することができたのでした。

（チューラガヴァッチャ）

◉神秘力による心遣い

クンダリニー・ヨーガの成就のための極厳修行中のことです。わたしは、リトリートで修行しており、毎日食事を持ってきてくれる方がいたのですが、その日もまたお世話の方が食事を持ってきてくれました。ですが、なぜかその日に限って、運んでこられた食事の量が極端に少ないのです。

「なぜ、こんなに少ないのですか？」

と、不思議に思い聞いてみると、

「尊師のご指示です。」

と言われました。実は、その日、わたしはおなかの状態がひどく悪く、苦しんでいたのです。尊師は、その状態を察知して、このような細やかな心づかいをしてくださったのでした。

わたしは、尊師はたとえ近くにいなくても、また、たとえ直弟子ではなくても（当時、わたしは信徒でした）、弟子の状態は常に把握していらっしゃることを確信しました。

（マルパ・ロサ）

◉離れていてもわかる弟子の成就

尊師は、弟子の成就は離れていても完全におわかりになるようです。

昨年の秋、わたしは、成就のために極厳修行に入っているサマナの方々の指導

をさせていただいていました。いつものように、道場二階の修行場に来て、彼らが瞑想、プラーナーヤーマなどをやるのを注意深く見ていると、突然、電話のベルが鳴りました。出てみると、尊師からで、

「Cに、サティアンのわたしのところまで来るように言ってくれないか。」

とのこと。わたしは、即、Cさんにそのことを伝えました。

数十分後、サティアンビルからうれしそうに戻ってきた彼女は、わたしに言いました。

「クンダリニー・ヨーガを成就しました。」

後程彼女に聞いたところによると、尊師に成就を判定される直前に、今まで落ち着かなかった心が一気に収まり、全く波のない湖面のように静かで、何も気にならない状態になったそうです。尊師は、その彼女の変化を離れたところにいながら、完璧にとらえていらしたのです。

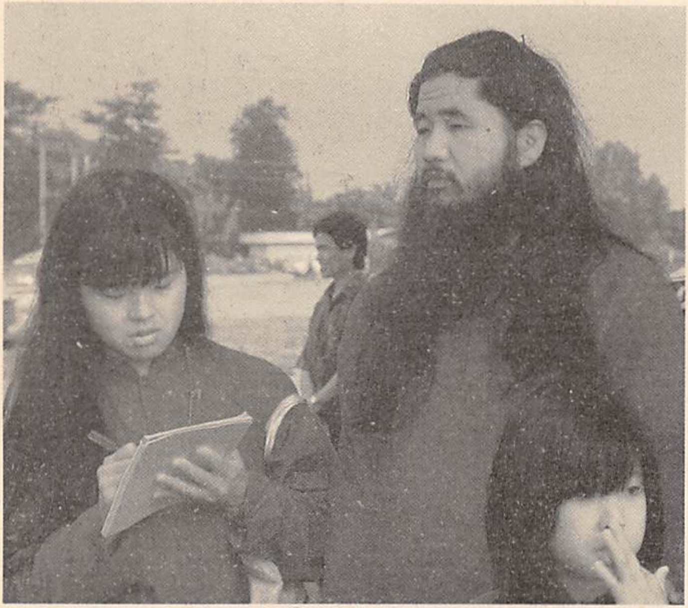
（パターチャーラー）

◉弟子を成長させる厳しい愛

わたしは、シャクティーパットというイニシエーションを多くの信徒さんに行ないました。あるとき、それによるエネルギーロスと、信徒さんから受けた膨大なカルマに耐えきれずに、死の寸前までいってしまいました。そのとき、尊師によって助けていただいたので、そのことをお話ししたいと思います。

経典にも解脱者は好きなときに肉体を捨てられると書かれていますが、わたしも「もう生きたくない」と思ったときに、その心の働きによって死へのプロセスを歩み始めてしまいました。すなわち、肉体を構成している五つの元素の崩壊が始まってしまったのです。

まず、地元素が崩壊し、そして水元素が崩壊しました。そして、次の火元素の崩壊に差しかかったとき、突然尊師が部屋に入ってこられました。しかも、点滴の準備をした医師を連れて。そして、点滴によって水元素優位にすることによっ



グルの弟子を導く愛は限りなく広大で、それゆえに厳しい
(左はヤソーダラー正大師)。

て火元素の崩壊を食い止めてくださったのです。尊師は「風元素の崩壊に至ってしまったら、助けることができなかった」と言われましたが、このとき最高血圧も七〇代にまで落ち込んでいたほど、死に近い状態でした。

驚いたことに、尊師はわたしがこういう状態に陥ることを予期していらっしゃって、以前からそのときには点滴を使おうと考えていらっしゃったということでした。その上で、わたしの修行のプラスになるよう多くの苦しみを味わわせ、ギリギリの線で助けようとされたというのです。これほど、尊師のグルとしての力量を感じたことは、かつてありませんでした。

なお、尊師はそのとき離れた場所にいながら、わたしの状態を把握していらっしゃったのだということも付け加えておきたいと思います。

（ヤソーダラー）

COLUMN—4

尊師の力によって続出する成就者

　麻原尊師は、現在までに約二百五十名もの弟子たちを成就へと導いている。その中の約百名は強靭な意志のヨーガであるラージャ・ヨーガの成就者であり、さらに約百名が生命エネルギーのヨーガであるクンダリニー・ヨーガの成就者である。十一名が、仏典でいう〝阿羅漢(あらはん)〟の境地に達したマハー・ムドラーの成就者であり、そして、三名が「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」という大乗の四無量心の実践に入った大乗のヨーガの成就者である。そして、彼らはそれぞれレベルの違いはあるものの神秘的な力を身につけている。

　これは、全くサキャ神賢(釈迦牟尼(しゃかむに))の時代以来の奇跡と言わざるを得ない。なぜなら、ラージャ・ヨーガの成就者でさえ、インドで十年間に一人とか二人しか成就しないといわれているからである。

　この奇跡を成し得た背景には、もちろん麻原尊師の弟子の個々のカルマを完全に見きった適切な指導と、エンパワーメント(神聖なエネルギー移入)があるのである。

◉シャクティープラヨーガで救われたわたし

八六年八月末の丹沢での合宿セミナーで、初めて尊師のシャクティーパットを受けたわたしは、二日後、所沢在住のニューサイエンスの研究家として有名なT氏のところに面談に行きました。当時、「尊師は本物だ」という確信はあったものの、もっと楽をしてチャクラの開発ができないか、などと不謹慎な思いを持っていたため、以前から面談する約束をしていたT氏のところに向かったのです。

初めて会ったT氏は、電話で知人に「宝くじは、どこの売り場で買えばよい」と振子を振った結果を教えたりしていました。求道心よりも欲望を優先させるタイプといった印象の人で、わたしは一目で、「この人より尊師のステージの方が高い」とわかりました。そこで、T氏に尊師の話をし、彼にも尊師の教えに触れることを勧めたのです。

そんなわたしに対してT氏は少々気分を害したようで、こう言いました。

「何だ。シャクティーパットなんて大したことないよ。わたしにだってクンダリニー・エネルギーを上げることはできる。じゃあ、今から君のクンダリニー・エネルギーを上げてみせるから。」

執ように言われて、断わりきれなくなったわたしは、彼と対座して一緒に精神集中し、ついに〝クンダリニーを上げられて〟しまいました。

しかし、その結果、わたしはひどい状態になってしまったのです。微熱が出て、体がいつもだるく、頭はぼーっとして、一日中眠気でうつらうつらするようになり、勉強も何もできなくなってしまったのです。

十日ほどそんな状態が続いた後、わたしは電話でそのことを東京にいる尊師に伝えました。

「やはり、ニューサイエンスのTさんにクンダリニーを上げられたのが悪かったのでしょうか。」

と、愚かにも問いかけるわたしに、尊師は強い口調で、

「バカ！　君はチャクラをいじられることの怖さがわかっていない。君は廃人になるだろう。」
とおっしゃいました。
まさに、その〝怖さ〟がわかっていなかったのでしょう、自己のなした過ちだからしょうがないな——と案外あっさりと観念していると、さらに尊師はこうおっしゃいました。
「君のグルはだれなんだ。そのTをグルにするのか。」
「わたしのグルは尊師以外いません。」
わたしは即答しました。すると、尊師は、
「わかった。それなら処理しておいてあげよう。」
とおっしゃってくださったのです。
わたしは尊師との電話の後、苦しい体を布団に横たえました。リラックスして、グルである尊師のエネルギーを受けようと思ったからです。

果たして、翌朝――。わたしは心身ともにすっかり元気になって、布団から起き上がりました。十日間苦しんだ心の重さも、だるさも、頭のぼーっとした感じも、眠気もすっかりなくなったさわやかな朝を迎えたのです。

尊師は、東京から、広島にいるわたしに、シャクティーパラヨーガ（直接体に触れないでなされるエネルギー移入）をなさって、わたしを救ってくださったのでした。

（ヴァジラカツ）

◉心身が一瞬にしてチェンジ

スリランカに尊師と一緒に行かせていただいたときのことです。帰国のとき、尊師は空港のロビーで、みんなと共に経行（きんひん）修行をされていました。しかし、わたしはといえば、経行をするのが苦痛で、通路の横の椅子にぐったりと座っていま

した。スリランカで慣れない食事をいつもよりも食べ過ぎたせいか、下痢、吐き気に見舞われ、立ち上がるのもおっくうだったからです。

尊師は、経行されながら、一人一人のサマナに対して助言を与えておられました。そして、

「ラーキニーナンダー！」

と、わたしも呼ばれたのです。しかし、わたしは体を起こすのが苦痛でぐずぐずとしていました。

すると、再度尊師は、わたしの名前を呼ばれ、わたしは何とか尊師のそばに行きました。

尊師は、最近のわたしの行ないで、出家修行者らしくないところをいろいろと指摘され、アドバイスを与えてくださったのですが、その直後、不思議なことが起こったのです。なんと、あれほどひどかった体の状態とそれと付随して起こっていた心の屈折などが綺麗さっぱり取れてしまったのでした。わたしは、グルと

いうのは偉大だなあとつくづくと思いました。

（ラーキニーナンダー）

◉尊師のエネルギーでムチ打ちが治った

出家したばかりのころ、わたしは、車のハンドルを切り損ねて事故を起こしてしまいました。車は廃車にするしかなかったほどの大きな事故で、わたしはムチ打ち症になってしまったのです。だんだん首が回りづらくなり、痛みも強くなってきました。

そこで、このことを尊師にお伝えすると、尊師が会ってくださることになりました。尊師はわたしのエネルギー状態をご覧になり、そしてエネルギーを移入してくださいました。わたしは、車を壊した罪悪感が込み上げてきて、胸がいっぱいになってしまい、

「車を壊してしまって申し訳ありませんでした。」
と謝ったのですが、尊師は叱るでもなく注意するでもなくただ一言、
「無事だったから良かったじゃないか。」
とおっしゃったのです。

もし、ここで叱られていたら、罪悪感がもっと大きくなって卑屈になってしまっていたでしょう。普通の人だったら怒るか注意するかどちらかだと思いますが、尊師はわたしの心をくみ取って慰めてくださったのだと思います。

この尊師のエネルギー移入と尊師に伝授された特殊な修行によって、わたしのムチ打ち症は驚くべき速さで治りました。普通は二週間ぐらいかかると思うのですが、なんとたった二日で治ってしまったのです。

尊師のエネルギーには、すごい力があるんだなとあらためて思いました。

（ミッター）

◉発される慈愛のヴァイブレーション

二年半ほど前、尊師のシークレット・ヨーガを受けたとき、わたしは緊張しながら、尊師の前に座りました。その瞬間です。わたしは、尊師の慈愛のこもった温かいエネルギーにすっぽりと包まれてしまったのです。

シークレット・ヨーガはあっという間に終ってしまいましたが、終った後も、そのエネルギーに包まれ、わたしはなぜかうれしくてうれしくてたまりませんでした。それは、煩悩を満たすことでは決して得られない魂の底からわいてくる歓喜でした。

実は、このシークレット・ヨーガを受ける前のわたしは、名前だけの信徒で、そろそろ本腰を入れて修行しなければいけないなと思い始めていたものの、尊師への信はまだ確立しませんでした。つまり、尊師に対して若干の疑いを持っていたのです。それが、このシークレット・ヨーガで吹き飛んでしまったことはいう

までもありません。

（パヴィッタ）

◉四無量心あふれた尊師の声

今年の九月のある日のことです。シークレット・ヨーガの順番を待っていたわたしは、ついうとうとしてしまいました。すると、下位アストラルに没入したのか、ぐんぐんと下に引っ張られるような感じがし、目が覚めてからも、何かしら気持ちが悪く、自分を何かが覆っているような感じがして、心が重く暗くなってしまったのです。

状態が回復せぬまま、名前を呼ばれて部屋に入り、わたしは尊師の前に座りました。尊師は、少しの間黙っておられました。そして、口を開いて、わたしに声をかけてくださった瞬間、なんと、わたしを覆っていた何かがサーッっと消えて

しまい、心がぱーっと明るく、軽く、すがすがしくなったのです。四無量心あふれたグルの声には、信じられないパワーがあるんだなと、しみじみ思った出来事でした。

(間庭世都子)

◉医学的常識を超えるパワー

九〇年八月のことです。そのころわたしは、オウム真理教附属医院で医師としてワークをしていたのですが、受け持ちの末期直腸ガンの患者さんの病状が急変しました。意識が全くなく、血圧は低下したままで、利尿剤を使っても何時間も尿がありません。

一般にこういう状態になっては、もう絶望です。しかし、何とかして助けたかったわたしは、このことを熊本のシャンバラ精舎にいらっしゃった尊師にご報告し

ました。すると、尊師は、スケジュールが詰まっていらっしゃったにもかかわらず、たった一人の患者さんのために東京のオウム真理教附属医院まで来られることになったのです。

尊師は、治療に加えて、

「『欲如意足』を聞かせなさい。」

というアドバイスをされました。「欲如意足」とは、尊師の声が吹き込まれた秘儀の瞑想テープです。現代医学的な常識が根づいていたわたしは、

（これでどうにかなるんだろうか？）

という若干の疑問がありましたが、とりあえず尊師のおっしゃるとおり聞かせました。すると、奇跡が起きたのです。それまで利尿剤に全く反応がなかったのに、急に尿が出始め、少しずつ意識レベルが上がっていきました。そして、尊師がオウム真理教附属医院に到着されて、患者さんの枕元で自ら名前を呼びかけられたりなさると、なんと言葉が話せるまでに意識が回復したのです。

医学的常識では全く考えられない出来事に、わたしは大変驚いてしまいました。

（佐々木正光）

◉方便自在の説法

尊師は、どんなときでも、ご自分の体調を省みず、わたしたちいたらぬ弟子のために真理を説き、エネルギーを与えてくださいます。弟子が煩悩に振り回され、道場のヴァイブレーションが悪くなったときでも、尊師がご説法してくださると、その空間が急に明るく輝き出すのです。

不思議なことですが、尊師の説法はそのときの自分にぴったり合っていて、それまで煩悩により苦しんでいても、「頑張らなくては」と新しい力が湧いてくるのです。

これは、わたしだけに限ったことではなく、わたしの周りのサマナはよく「今

の説法はまさに今の自分に当てはまる」と言っており、尊師の説法を機に心をチェンジさせて、さらに修行に励むようになっているようです。

これは、まさに尊師の素晴らしい超越神力の一つであるとわたしは思います。

（タントラウッタマー）

COLUMN—5

心を瞬間的に変える説法

仏典には、サキャ神賢（釈迦牟尼）が、弟子たちや外道、凡夫に真理の法則を説き明かし、その結果、彼らが一瞬にして心をチェンジさせる場面が随所に見られる。そのときの彼らに最も合った法則を神秘力によって知り、それを説くことによって、サキャ神賢は、弟子たちの心を歓喜させ、より一層修行に向かうようにさせたり、今まで他宗派に信をもっていた人を改心させたり、あるいは現世的なものにしか興味のなかった魂を修行に入らせるようにしていたわけである。

麻原尊師も同じく、真理を説くことによって、今まで真理に目覚めなかった人の目を一瞬にして開かせたり、煩悩的になりつつある弟子を修行に向かうようにさせたりということをよくなさる。これは、もちろん超越神力がなければできないことであることはいうまでもない。



◉猫の魂を天界へ

わたしが修行を始める前から飼っていた猫は白血病でした。その猫の容態が急に悪化して死を迎えたときの出来事は今でも忘れられません。

まず、呼吸の止まった猫を尊師が抱くと、再び呼吸が始まるのです。なんて尊師のエネルギーというのは強いのだろう、と思いました。

尊師が猫を離されると呼吸が停止し、抱かれると呼吸が再開するということが何度か繰り返されているうちに、尊師が、

「今、クリアライトに入ったな。」

とつぶやかれました。と、同時に聴診器を当てていた獣医の資格を持ったEさんが、

「心臓が停止しました。」

と言ったのです。

本当にそれが全く同時だったものですから、尊師がいかにリアルに猫の魂が肉体を離れてバルドー（死後の中間状態）へ入っていく様をご覧になっているかがわかりました。

その後、尊師はポアの瞑想に入り、猫の魂を天界にまで引き上げてくださったということでした。

（ヤソーダラー）

◉死後の世界の案内人

尊師のポアについてお話ししたいと思います。

あるとき、熱心な女性の信徒さんが不慮の事故で亡くなりました。わたしは、このことを同じく信徒さんだったご主人からの連絡で知り、すぐに尊師にご連絡しました。わたしの説明が終わらぬうち、尊師は、

「切った場所は右の上わき腹じゃないか。」

と聞かれたのですが、そこまで聞いてはいないと申し上げると、

「わかった。わたしが直接ご主人に電話してみるよ。」

と言って電話を切られてしまったのです。

尊師にお任せした安心感からか、わたしは初めて自分のアナハタ・チァクラの痛みに気づきました。ハーケンか何かで打たれるような激しい痛みです。しかし、わたしはそれに耐え、用事を済ませに外に出かけました。

出かけて間もなくすると、ポケットベルが鳴り、表示先に連絡すると、

「至急、尊師に電話をしてください。」

とのメッセージがありました。そして、電話口に出てこられた尊師から、思わぬポアの体験をお聞きすることができたのです。

「今、彼女のポアが終了したよ。彼女は人間界でも最も徳のある、修行者の子供として転生することになるよ。」

尊師は、わたしとの電話を切った後、すぐに瞑想に入り、彼女の魂を追いかけ、そして、バルドー（死後の中間状態）で彼女にいろいろなアドバイスと、特殊な瞑想法を与えられ、ポアをなさり、彼女を高い世界へ導いたそうなのです。

尊師によると、彼女は、自分が死んだことを認識していて、自己の死に対して引っかかりを持ち、苦しんでいる状態にあったそうです。その苦しみを、縁の深かったわたしのところに訴えにきていたのです。わたしのアナハタの痛みはこれが原因だったのでした。

「サクラー、胸の痛みが消えただろう。」

と尊師がおっしゃるので、ふと自分の状態を振り返ってみると、確かにあの痛みが消えています。アナハタ・チァクラは人間界と深いつながりがあるのですが、これは彼女が転生した証明なのです。

実は、わたしだけではなく尊師も体調を崩されていました。当然、彼女はわたしのところだけではなく、根本グルである尊師のところにもやってきたのです。

以前にも、尊師は亡くなられた信徒の方の魂を耳から抜けさせて（意識堕落天への道筋）、ポアされ、中耳炎になられたことがあったのですが、今回は、ちょうど彼女が亡くなられたころから、心臓が苦しくてたまらない状態だったそうです。

ちなみに、後でご主人に確認すると、尊師がおっしゃったとおり、右の上わき腹を切って、彼女は亡くなっていました。離れたところにいながら、尊師はすべてを知っていらしたのでした。

あらためて、弟子はグルと霊的に完全につながっており、真面目に修行をしていれば、必ず死に際しても高い世界へ導かれることをわたしは実感しました。

（サクラー）

◉〝ポア〟――降り注ぐ光のエネルギー

Bさんというガン患者が亡くなり、尊師がそのBさんの魂をポアされようとされたときのことです。

「これからBさんのポアの瞑想を開始する。」

と尊師がおっしゃった直後から、病室の雰囲気が一変するのを感じました。突然部屋の天井の方から光が射し始め、ものすごいエネルギーがシャワーのように降り注ぎました。それとともにわたしの体も浄化され始め、Bさんの蘇生のために費したエネルギーが回復していくのを感じました。また、臨死に立ち会った医師としては、非常に不釣り合いな感覚なのですが、すごい至福感に包まれたのです。

修行の進んでいるJ師が、その場に居合わせたのですが、エネルギーの変化はわたしと同時に彼も感じていて、尊師がBさんに対してイニシエーションを施して、Bさんが非常に喜んでいるヴィジョンが見えたそうです。

なお、尊師とわたしたちはこのとき直線距離で五百キロメートルほど離れていました。尊師のポアには、距離は全く関係ないのです。

（ヴァジラティッサ）

COLUMN—6

魂を高い世界へ導く〝ポア〟

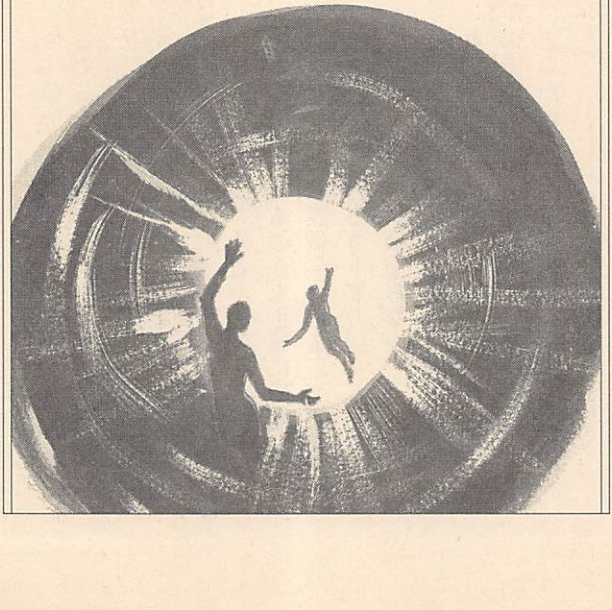
ポアとは、高い世界へ意識を移し変えることをいうが、特に、死んだ魂を高レベルの修行者が高い世界へ導くことを指すことがある。

チベット仏教では、この「死者のポア」は非常に重要視されており、力のある修行者であればあるほど、確実に魂を高い世界へ導くことができるとされている。チベット仏教について書かれた『虹の階梯(かいてい)』(ラマ・ケツン・サンポ、中沢新一共著)には、死者のポアについてこのように記されている。

「しかし、意識が身体を完全にぬけだしてしまってからでは、たとえすぐれた密教行者でも死者の意識を追いかけ、つかまえるのは難しい。すでに身体をぬけだしてバルドにある意識にポワを行なうためには、死者の意識がバルドのどの状態にあるのかを正確に見ぬく透視力と、その意識をつかまえ、ひきあげられるだけのヨーガの能力とがそなわっていなければならない。そういう行者なりラマなりが身近にいてくれれば、すでに完全な死の状態にある者の意識をポワして、最悪の事態からはまぬかれることができる。けれども、

この『死者のポワ』を行なってくれる行者は、死者の運命を救おうという深い慈悲につきうごかされてやってくるような、すぐれた心の持ち主を選ぶ必要がある。」

麻原尊師は、本文に挙げた例の他に、何人かの縁ある魂を本来転生するはずの世界より高い世界へと導いている。尊師のように最終解脱をなさり、バルドー（死後の中間状態）を知り尽くした魂は、確実に死者の意識を高い世界へと導くことができるのである。そして、その背景にあるのは、深い慈悲の心であることは言うまでもない。



第二章

麻原彰晃尊師説法
神へと至り、超越神力を現わせ

この第二章では麻原尊師の説法を二話ご紹介したいと思う。

第一話は、「大説法祭」のときに信徒に向けて語られたもので、超越神力を得、最終の解脱をし、絶対的な幸福に到達する道をお説きになったものである。

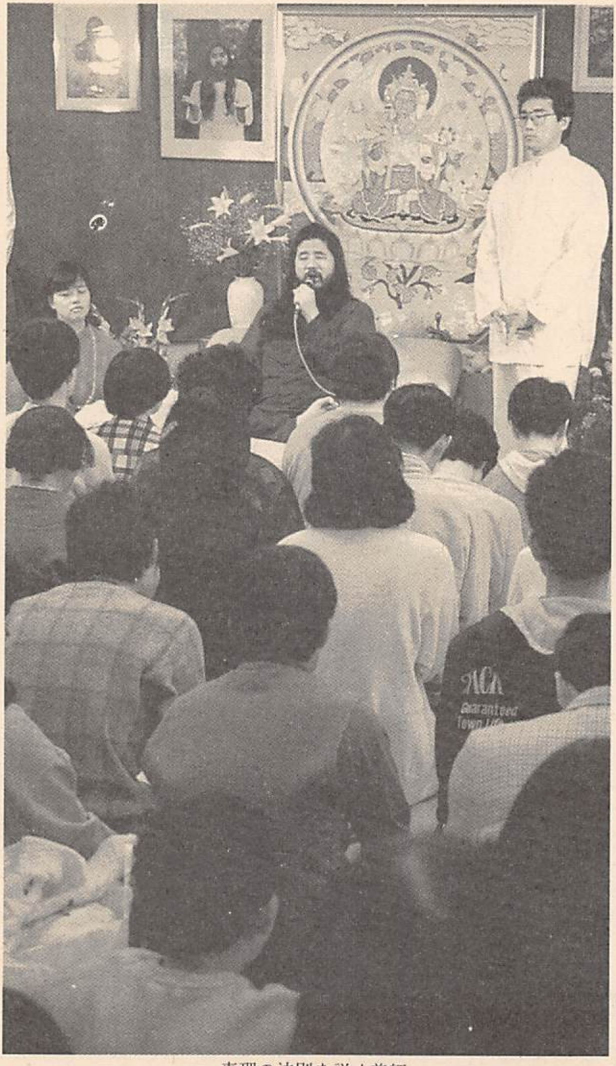
第一話　愛著を超えて、絶対的な真理へ

◉真に価値のある生き方とは

人間の寿命はわずか八十年である。この八十年というのは、日本人にとってのだいたいの平均的寿命である。この平均的な寿命、生まれた瞬間、そして、死ぬ瞬間の二点を考えてみるならば、それが八十年であろうと百年であろうと、あるいは五十年であろうと、変わりないことになる。

では、よりよい人生を生きるためにはどのように考えたらいいのかと。それは、この八十年、あるいは、例えばインドの平均寿命のように五十年、あるいは天界の寿命のように例えば、一万年とか、あるいはもっとより多くの十万、百万、一千万という長きにわたる寿命であったとしても、その死ぬ瞬間までに何をその魂

が実践したのかによって違ってくるわけである。
そして、例えば大いなる言葉の善業、大いなる心の善業、大いなる行為の善業を積み続けるならば、当然それは長く生きた方がわたしたちにとって利益になるし、あるいは逆に徳を消耗し、身において悪業をなし、口において悪業をなし、心おいて悪業をなすならば、わたしたちはその生を早く終わりにした方が利益になるわけである。
それはちょうど、その人生が、例えば給料を取り、そしてその給料内で楽々生活でき、少しずつ少しずつ蓄えていくと。この状態で長く生きた場合、その人は大きな貯金をすることだろうし、しかし、もしその人が自分の給料だけじゃ生活できず、少しずつ少しずつ借りを作っていくならば、その人は長く生きれば生きるほど借金が多くなるのとたとえが似ている。
つまり、わたしたちのこの人生に対する生き方は、ただ一つ、善の蓄積、徳の蓄積、あるいは心を平安にする蓄積、あるいは高い世界を経験する蓄積、これら



真理の法則を説く尊師

の四つの繰り返しを実践し、それを蓄積すること、これのみが価値があることなのである。

◉自由になるために

「いや、そんなことをいったって、例えば夫婦仲が良くて子供を愛し、楽しく生きることも素晴らしいことじゃないか」とおっしゃる方がいるかもしれない。それは確かに短い期間を見るならば素晴らしいことである。しかし、愛著（あいじゃく）すればするほど、愛にとらわれればとらわれるほど、わたしたちの苦しみというものは、その愛が破壊されたときにより大きく受けなければならないのである。よって、サキャ神賢にしろ、イエス・キリストにしろ、そのような愛を完全に否定したのである。

解脱の前段階二つは何かというと、「現世否定」・「離愛著」である。現世否定・

離愛著とは何かというと、この人間界の粗雑な喜びから、より微細な喜びへと移行しなさいよという教えであり、そして愛著こそがこの世界へわたしたちを縛り付けているただ一つの絆なのだという教えなのである。

もともとわたしたちは自由なのである。しかしそれは、わたしたちの経験により、日々の経験により、その自由は愛著という鎖によって縛られるのである。それはちょうど家で生活する者のたとえに似ている。例えば家には愛する妻がいる、愛する子供がいると。すると、その夫は必ず家に縛られてしまう。もし、愛する妻、愛する子供がなく、憎むべき妻、憎むべき子供であるならば、その家に寄り付かず、その人は家から自由になるだろう。これと同じように、例えば五蘊（ごうん）に対して、この世界に対して愛著しなければ、意識はこの肉体から抜け出しいろいろな世界を経験する。その人が徳があれば天界の高い世界を経験するし、その人が徳がなければ低い世界を経験するのである。つまり、愛著を切ることこそ最後であり、そして愛著を切ることこそすべてなのである。

◉最終の解脱へ

しかし、そうはいってもなかなかこの愛著を切ることができない。そして、その愛著を切るために、サキャ神賢は偉大な法則をお説きになった。

それが、苦しみ、つまりこの現実の生活は苦しみであるという教え、そして苦しみの人生から出離するためには、まず第一にしっかりと霊的指導者、グルに対して帰依をすると。そして、クンダリニーを覚醒させることによって歓喜の状態を経験すると。そしてその歓喜の状態を経験し、そのエネルギーが心に影響を与え、大いなる喜びの状態、そこに何も行為も、あるいは言葉も使わなくても大いなる喜びの状態を経験しなさいと。そしてその大いなる心の喜びは、わたしたちを平安の境地へと導く。

ここで一つ気を付けなければならないことは、外道の教えにおいてこの平安の境地をニルヴァーナ、涅槃であるといっている。しかし、実際はここには涅槃（ねはん）は

存在しない。まだこれはある程度の悟りの段階ではあるが、涅槃ではない。この平安の境地からもう一歩突っ込み、エネルギーがよりいっそう充実すると、楽の状態を経験するのである。これは身体・心が完全にリラックスした状態である。そして完全に身体・心がリラックスした状態であるから、死に対する恐怖、その他は完全に失せ、肉体から自在に意識が離れる。自在に意識が離れることによって、いろいろな世界を経験すると。

そして、そのプロセスの第一は、まずわたしたちの肉体の頭頂から化身が抜け出すと。そして、いろいろなそこで経験を行なうと。次の段階で、ナーディーが完全に浄化されたがゆえに、天のヴァイブレーションを受けるようになり、天耳通が生じると。そして他心通、宿命通、死生智という神通力が生じ、如実精通見解へと至るのである。

そして、この如実精通見解からもう一歩突っ込むと。つまり、この肉体も確かに捨断すべきものであったと。しかし、そのような霊的なものも何の利益もない

と。その段階で、完全にすべてからの愛著、すべてに対する愛著から離れる。これは神通力に対する愛著も離れます。そして、離解脱、最終の解脱へと到達するのである。

◉与えられた時間を生かして

もちろん、このとき大切になってくるのは「正見解」であり「正思惟」であり「正語」であり、そして「正行為」であり「正生活」であり「正奮闘努力」であり「正記憶修習」であり「正サマディ」なのである。これらの実践をしっかりと皆さんが行なうならば、皆さんのこの八十年というものは、今まで皆さんが何万カルパ、何十万カルパ、何百万カルパと輪廻(りんね)を繰り返してきた、その価値より、ずっとずっと大きな八十年ということになる。あるいは、そこを例えば十年で達成するならば、ずっとずっと大きな十年ということになる。つまり、長く生きる

ということが価値があるのではなく、その与えられた時間をどのように費やすか、どのように生かすかということが大切なのである。

◉仏典に見る真実

仏典を読むと面白い話がある。サーリプッタの前生、サーリプッタのサキャ神賢との生の最期は、赤痢にかかり、そして有能神のお世話を受け亡くなったと仏典に記されている。これは何かというと、最終的には肉体を完全に解放すると。そして自分自身のカルマを見きわめて、そのカルマの完全に昇華をなした後、逝くわけである。あるいはサキャ神賢の生も同じで、これは皆さんもよくご存じのとおり、腐った豚肉とも、あるいは腐ったキノコともいわれているが、それを食べ、そして下痢をし、その下痢によって肉体のエネルギーを弱め、そして肉体から完全に離脱したのである。

同じようにサキャ神賢の前生において、妻であったヤソーダラーに対して、一緒に神聖行をなし、出家し、そして最終的にヤソーダラーは下痢にかかり、そして死んでいると。しかしこのときに、一切後悔していないのである。なぜならば、ヤソーダラーは来世天の世界へと行ったと。わたしはまだこの人間の世界へ残っていると。よって、なぜヤソーダラーに対してわたしが悲しまなければならないのだろうかと。悲しんでほしいのはわたしであると、サキャ神賢はその詩の中でうたっていらっしゃる。これはまさに、すべての世界を知った者が、例えば自分の愛する者がこの粗雑な人間の世界よりより高い世界へ生まれ変わり、そしてそこで、この人間界の何百倍、何千倍、何万倍という喜びを経験するんだと、しているんだということを知っているがゆえに言える獅子吼なのである。

◉ちっぽけな地球を超えて、宇宙的経験を

そして、皆さんは今、真理の実践を行なっている。皆さんがこの真理の実践を行なっているということは、皆さんもサキャ神賢と同じように、そのようにこのちっぽけな地球、ちっぽけな地球だけではなく、より多くの宇宙的視野に立ち、宇宙的経験をなし、そして、その宇宙的な視野に立った状態ですべてを解き明かすことができるはずである。すべてを解き明かすことができるということは、より価値の昇華、より正しい価値判断というものが宿り、そしてその状態になったとき、初めて皆さんは絶対的な幸福、揺るがない幸福、あるいは絶対的な平安というものを得るわけである。

これだけ素晴らしい実践課題が存在するのに、なぜ皆さんは正見解を具足し、正思惟を具足し、正行為を具足し、正語を具足しといったような、聖なる八段階の道、あるいは聖なる十段階の道を実践しないのだろうか。そうはいっても、こ

の道の実践は大変であると。確かにそれは大変かもしれない。しかし、大変であれば自分にできるだけの、まず正語・正行為・正生活といった実践をすればいいのである。そしてそれを少しずつ、少しずつ増やしていく努力、奮闘努力をすることにより、必ずや一年後、二年後、三年後には、皆さんは絶対的な真理へと到達するはずである。

◉実践すれば、必ず結果は現われる

ところで、阿羅漢(あらはん)に至るためにはどれほどの時間がかかるのだろうかと。これは、もしその人が努力をするならば、真剣に努力をするならば、天才型で一週間と。そして、天才型でない人も一年で達成できると、阿羅漢に達成できるといわれている。わたしは多くの弟子たちを育ててき、あるいはいろいろな信徒さんの活動を見ていて、それはまさにそのとおりだなと考えます。

例えば、例を挙げるならば、京都支部の松原さんは、まだホーリー・ネームこそあげていないが完全に変化身の体験をし、光の体験をし、ダルドリーの体験をし、俗にいうところのクンダリニー・ヨーガの成就の体験、ほとんど近い成就の体験をしていると。これは松原見紗さんが、日々布施・奉仕・瞑想といったものに努力し続けているからである。

あるいは、例えば東京の町山さん。彼女は、ひたすら忍辱の修行をすることによりより強大な心を形成している。あるいは、同じように東京本部のクッジュッタラーさんは、日々の活動によって智慧を増大させている。といったような形で多くの人たちが智慧を増大し、あるいは神秘的な経験を増大させている。

これは、明らかにオウム真理教の実践をしっかり行なえば、それぞれがそれぞれのレベルで、大いなる如意、大いなる智慧というものを獲得できることの証明であるとわたしは考えています。そして、その証明、この証明を皆さんが自分のものにするためには、しっかりその教えを学び、そして実践するしかないのである。

ここに法が存在している。ここに法を実践し到達した者たちがいる。ここにその法の学び方がある。これだけそろっている条件のもとで、皆さんはただ実践すればいいのである。そして皆さんがこれから半年後、一年後と真に精神的力をつけ、霊的力を増大させ、そしてこの日本が、地球が真の道場となるためには、皆さん自身、一人一人が今日この瞬間から、強い、確固たる決意をなすべきである。そしてそのための土台、それは正見解、つまり教えを絶対的に記憶し、それを繰り返し繰り返し記憶し、そして思索すること、ここから始まるのである。しっかり努力していただきたいものである。

（九一年十月二十日・寝屋川市立市民会館にて語る）

第二話　神々の時代の到来

第一章でも少し述べたが、このような超越神力と四無量心を持った偉大なグル、麻原尊師に導かれた弟子たちは、徐々に徐々に神秘的な力と絶対的な心の平安を獲得しつつある。

オウム真理教では、この神秘性を様々な科学的な方法によって証明しているが、その一つとして、九一年の十一月、十二月に尊師の高弟たちによる「アンダーグラウンド・サマディ」が行なわれた。サマディとは瞑想の究極状態で、このとき呼吸は停止する。その証明をなすために、土に埋めた二七立方メートルの箱の中に、五日間入るという試みをなしたのである（これは、通常なら酸素不足による完全なる死を意味する）。これが、アンダーグラウンド・サマディであり、付け加えるなら、このサマディに入ってから後、神足通、天耳通、他心通、宿命通、

死生智、漏尽通の六つの超越神力がつくのである。

第一回目のマイトレーヤ正悟師によるアンダーグラウンド・サマディは見事に成功した。そして、次のヤソーダラー正大師に引き継がれた。以下の第二話の麻原尊師説法は、そのときのものである。

彼らがどのような世界を獲得しようとしているのか——それを読み取っていただきたいと思う。

◉前回とは違う、その意味合い

今回のヤソーダラー正大師のアンダーグラウンド・サマディの試みは、前回のマイトレーヤ正悟師のアンダーグラウンド・サマディの試みとまた違った意味での重要性を秘めている。それは、彼女がシャクティーパットという加行を終えて約三カ月から四カ月経つわけだが、その間にどの程度風の働きを回復しているかということが、一つの見所となる。

もともと彼女は普通の生活をしながらも四日間の断水・断食を平気でこなす人だから、この中での五日間の断水・断食については、全く問題ないと思われる。しかし、呼吸については、これはマイトレーヤ正悟師もこれから経験する部分に入るわけだが、エンパワーメントによって管が詰まり、それによって呼吸が働き出すと。

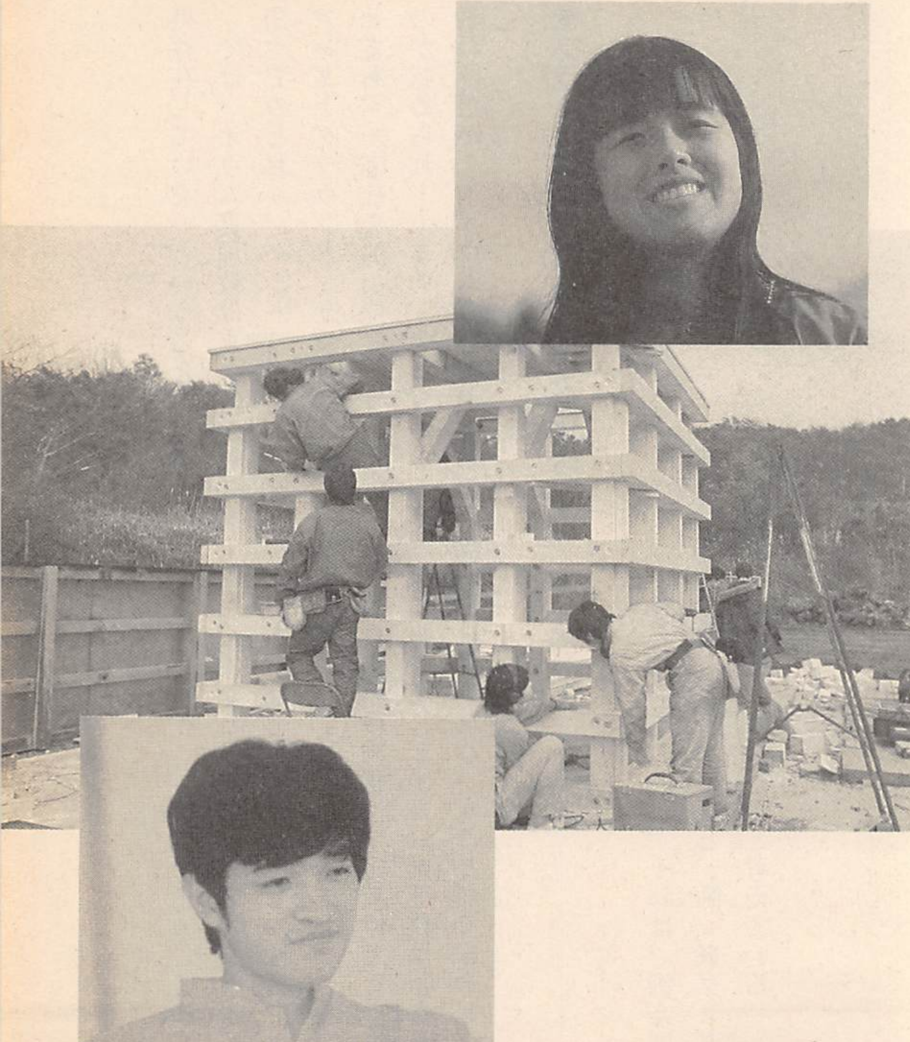
つまり、内側の風の働きが制御されることによって、外側の風が働き出すと。

で、彼女が入る前の状態を見ていると、まだ若干の呼吸というものが生じていたから、この五日間の間にどこまでそれを止め、そして安全圏内で逃げ込むかということが、一つのポイントになってくるんではないかと考えている。

◉二十一世紀に登場する奇跡的な宗教

では、なぜ前回マイトレーヤ正悟師に続いて、今回ヤソーダラー正大師から始まる正大師、正悟師のアンダーグラウンドの五日のサマディを行なうことになったのかということについて、君たちに少し説明をしたいと思う。

もともと二十一世紀に登場する宗教、二十世紀の終わりから二十一世紀に登場する宗教は、奇跡的な宗教であるというふうに予言書に述べられている。しかし、わたしたちがこの地球上のいかなるところを見渡したとしても、その奇跡的な宗教は存在していない。いや、言い方を換えるならば、それはこのオウム真理教以



この箱を地中に埋めて、解脱者の証明をなした（上はヤソーダラー正大師。下はマイトレーヤ正悟師）。

外存在していないということができる。
では、オウム真理教はまず何からスタートしたのかと。これは、みんなもよく知ってのとおり、ダルドリー・シッディからであると。次に、わたしの予言ではアンダーグラウンド・サマディ、そして水中サマディへと移行する。そして、やっとまあ、一応社会的な位置づけとして、オウム真理教の神秘性、宗教性というものが認められ——まあ、それだからこそ、なおかつ逆に、オウム真理教は叩かれるわけだが——オウム真理教が本来の宗教活動に戻ったということができると。

◉プラーナによって生きる生命体へ

では、わたしはこれからどのようなことを考えているのかと。それは、例えばアンダーグラウンド・サマディの五日、これはある段階が来ると、師（※クンダリニー・ヨーガの成就者）でもできる段階に入るのではないかと考えている。

それはどういうことかと。人間を制約しているものの考え方は観念である。よって、例えば一番目にマイトレーヤ正悟師がアンダーグラウンド・サマディを成功させたことは、大変貴重な意義がある。

つまり、君たちの先達であるマイトレーヤがそれを成功したと。で、これに続いて、シャクティーパットを行なった後のヤソーダラー、あるいはまだシャクティーパット前のマンジュシュリーやミラレパたちがどんどん成功することによって、君たちの中にオウム真理教の修行を確実にこなしていけば、少なくとも五日間のアンダーグラウンド・サマディに入ることができるんだという確証が得られるはずである。

そして、この五日を最終的には三十日から六十日間に引き上げたいと考えている。というのは、このアンダーグラウンド・サマディが三十日をもし越すことができるならば、それは現代のヨーガでいわれている限界点を越したサマディということになるからである。

そして、何を隠そうサキャ神賢は三年間の断食をなさったといわれている。最終的にわたしが考えている部分は、君たちの観念を一つずつ取り払い、そして一カ月、二カ月と平然と断水・断食、あるいは断食を二カ月、三カ月と行なったとしても、平然と耐えられると。耐えられるというよりも、そういうものではなく生きていかない、つまりプラーナによって生きていく生命体へとつくり変えたいと考えているからである。もちろん、そのとき君たちは神聖天界の住人になっていることは間違いない。それをこの地上に達成すること、これが狙いなのである。
そして、そのような形で完全に代謝が落ちきった状態では、呼吸はゼロの状態になる。この段階で、水中サマディは成功するのである。

◉人を超え、神となれ

では、次にである。この段階で水中サマディが成功するということは、何を意

味しているのかと。これは、第四静慮を意味している。つまり、入出息が完全に静止した状態を意味している。そして、この入出息が完全に静止した状態のとき、わたしたちは化身をつくりだし、その化身によって粗雑な身体をつくり出すことができる。その化身が粗雑な身体を形成するその身体というのは、まさに自在な身体、テレポーテーション、浮揚、その他が自在な身体ということになるのである。

つまり、奇跡の段階的証明、そして証明と同時に、君たちの観念の崩壊、そして人を超えさせて、神とさせると。これが、わたしの君たちに与える愛なのである。

ということは、この二番目のヤソーダラー正大師のアンダーグラウンド・サマディは当然失敗させられないし、三番目、四番目と続く正悟師のアンダーグラウンド・サマディは失敗させられない。それと同時に、師、あるいはスワミ（※ラージャ・ヨーガの成就者）、サマナといった者たちが、これからこの課題を目標と

して励み、そして仏陀と至るための道、仏陀として至るための道をしっかりと歩き、そして元いた天へ帰る。あるいは、天を超え、実際に認知経験滅尽の世界に没入し、そこで絶対的な境地を経験すると。それを、わたしは君たちにプレゼントしたいと考えているのである。

◉救済者・マイトレーヤ

今生は、わたしにとってまだまだ中間の生である。わたしの本質は、ミトラとも、あるいはミスラとも、マイトレーヤとも呼ばれる本性である。そして、このミスラ、ミトラ、マイトレーヤというのはすべて同じ意味を表わしているわけだが、仏教では、今生のこのカルパの最終に登場する救済者として、他の宗教では光の神として、あるいは盟約の神として示されている。

そして、この神々の救済が成功するか否かは、つまり、選ばれた、そして神に

至るための道を歩いている君たちが、どの程度本気で全力で救済を意識し、自己の修行に没頭するかである。

◉劣った乗――ヒナヤーナ

まず、はっきりと言っておかなければならないことがある。それは、現象に左右されるような魂は、当然サマディに入れないということである。

よく師の話の中で、これこれの問題があるからこうなんです、これこれの苦しみがあるからこうなんですというバカなことをいう師がいる。しかし、よく考えてごらん。それは外側の苦しみである。外側の苦しみを止滅し、それを戒によってしっかりと防備し、次に内側に浮いてくるいろいろな雑念を思索によって止め、そして完全に心の空っぽな状態をつくりだし、楽を捨て、不苦不楽の状態になり、完全に煩悩を滅尽し、呼吸の静止した状態、これが第四静慮であるはずである。

だとするならば、その第四静慮へ至ることのできる魂は、当然この現世においても、堂々と偉大な結果を出したとしてもそれは当然である。どうだ、それは。ということは、言い方を換えるならば、師の活動すらできない人間は決してこのサマディに入ることはできない。それが、その人のカルマの限界ということになる。そして、それをもってヒナヤーナというのである。

◉王者の修行者へ

ところが、テーラヴァーダは、この現実の生活の中に身を置き、そこでいろんな外的煩悩と対決し、そして内側に浮いてくる煩悩と対決し、そして自分自身を完全に現世に置きながら止めてしまうという、つまり、これこそまさに現世涅槃、現世煩悩破壊なのである。そこに到達することを目標としている。

当然、恵まれた環境でリトリートに入り、そして煩悩を捨断する。これは、こ

れで素晴らしい修行である。しかし、もし現世にいながら、きちんと記憶修習を続けることにより、必要なときは煩悩を止め、そして必要でないときはしっかりと救済活動を意識し、自分自身の心、エネルギー、これを多くの魂に布施することができるならば、それはより偉大な修行者ということになる。

そして、もちろん、修行者としての落ちこぼれはリトリートに入らなければならない。これは、リトリートに入るということは、もともと落ちこぼれなのである。なぜならば、現世から遮断されなければ解脱しないわけだからである。もちろん、現世にいて離愛著することは難しい。現世にいて滅尽することは難しい。しかし、それをなすことができるならば、それは王者の修行者、真の修行者、前生から類い稀な徳を持ち合わせた修行者ということになる。

この中のどの程度の魂が、第四静慮まで行くか。それは、はなはだ疑問である。いくら努力をしたとしても、ナーディーが完全に詰まっていたら、その一つ一つを破壊するのにかなり時間がかかる。よって、今生で第四静慮まで入れない魂も

出てくるだろう。しかしだ、第四静慮まで入れないとしても、努力し続ければ、いつしか必ず第四静慮に入り、そして仏陀の境地を体現できるのである。だから、それを意識し、日々の努力に励んでほしいと思う。いいね。

（九一年十二月五日・第二上九一色道場にて語る）

※九一年十二月十日、ヤソーダラー正大師のアンダーグラウンド・サマディは見事な成功で終了した。

おわりに

あなた自身が超越神力を得たい、あるいは解脱を得たい、絶対的な幸福を得たいと望むのならば、まずはグル（導師）を探すことである。つまり、既にそれらを得た者に、そこへ到達する道筋を教えてもらうのが一番早道である。自分自身の力で到達しようとするならば、かなりの回り道をすることを覚悟しなければならないし、途中で挫折したり、間違ったところへ行き着く可能性は大変高くなる。しかし、もしすべてを知ったグルが存在するなら、そのような危険は冒さなくても済む。もちろん、そのグルには、あなたを真に育んでくれる広大な四無量心が存在している魂を選ぶべきである。

インドのヨーギーたちは、グルの重要性というものをよく知っているがゆえに、つまり、グルなしでは自分の修行が成就し難いということを理解しているがゆえ

に、グル探しに一生をかける者も多いという。

　また、チベット仏教でもグルというのは大変重要視されている。前掲『虹の階梯』には、このように記されている。

「しかし、こういう心の解放も、すぐれた精神の導師にめぐりあうことがなかったら、とうてい実現は難しい。修行には導師（グル、ラマ）という舵手が必要なのである。それだけに、誰を自分のラマとして選びとるかということが、とても大事なことになってくる。よこしまな舵手に導かれて三悪趣に迷いこむことだってありうるからである。そこで、はじめにラマを選ぶ前に、あなたはその人物が精神の導師にふさわしいかどうか、よく観察して相手を見きわめておくことが大切だ。…（中略）…精神の導師にふさわしいラマは、心の本然のありようを体験し、しかもそこにたどりつく道順を正確に知りぬいている者でなければならない。

　だが、知識が豊かだというだけでは、まだ不十分である。輪廻に迷うものたちの苦しみに深い慈悲の心をおこして、彼らを心の解放にまで導いていってやりた

いという願いをもった者でもなければならないからだ。」

そして、弟子のカルマを完璧に見きり、慈愛をもって導いてくれる偉大なグルに巡り合うことができるのは、本当に類い稀なことなのである。もし、そんなグルに巡り合うことができたなら、その人は千載一遇のチャンスを手にしたこの世で並ぶ者のない幸福な魂ということになろう。

――麻原尊師は、「まだ目覚めていない、前生のわたしの優秀な弟子たちがたくさんいるはずだ」とおっしゃっている。この書を読んでいるあなたがその優秀な弟子であるならば、一日も早く真理に目覚め、神へと至り、超越神力を現わしていただきたいと心より願う。

一九九一年十二月十日

オウム出版広報編集部

※参考資料として、『南伝大蔵経』の『出家修行者果報経』より、六神通について記されている箇所を抜粋しておく。

八八　「大王よ、全く同様に、向煩悩滅尽多学男(こうぼんのうめつじんたがくなん)がこのようにサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、情欲はなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適し、集中継続して、不動を得たとき、彼は如意の性質に心を定め傾注するのです。

彼は、様々な如意の性質を経験します。――一つがいろいろな形となり、同様にいろいろな形が一つとなり、明らかにテレポーテーションをなし、塀を超え、城壁を超え、山を超え、くっついていないで行くのは、例として空間の中のようであり、同様に地に浮き上がったり潜ったりするのは、例として水中のようであり、同様に水上を沈むことなく行くのは、例として地上のようであり、同様に空間の中を蓮華座で散歩するのは、例として翼ある鳥のようであり、同様にこのよ

うに大いなる如意とこのように大いなる威神力がある、これらの月と太陽とを手で触れて磨き上げ、同様に神聖天の世界にまで、身をもって欲望を満足させることに従事します。

大王よ、同様にこれは、実に現実に利益をもたらす出家修行者の果報であり、先行する現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より素晴らしく、そしてより極妙なのです。

……（中略）……

九〇　大王よ、全く同様に、向煩悩滅尽多学男がこのようにサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、情欲はなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適し、集中継続して、不動を得たとき、彼は天耳界（てんにかい）に心を定め傾注するのです。

彼は、清浄であって人間を超越した天耳界において、天と人間、そして遠くや面前の双方の声を聞きます。

大王よ、同様にこれは、実に現実に利益をもたらす出家修行者の果報であり、先行する現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より素晴らしく、そしてより極妙なのです。

……（中略）……

九二　大王よ、全く同様に、向煩悩滅尽多学男がこのようにサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、情欲はなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適し、集中継続して、不動を得たとき、彼は他心通に心を定め傾注するのです。

彼は、他の種々の生命体や他の種々の魂の心によって心を把握して認識し理解します。――

すなわち、愛著（あいじゃく）がある心を愛著がある心と認識し理解します。

すなわち、愛著を離れた心を愛著を離れた心と認識し理解します。

すなわち、邪悪心がある心を邪悪心がある心と認識し理解します。

すなわち、邪悪心を離れた心を邪悪心を離れた心と認識し理解します。
すなわち、迷妄がある心を迷妄がある心と認識し理解します。
すなわち、迷妄を離れた心を迷妄を離れた心と認識し理解します。
すなわち、閉じ込められた心を閉じ込められた心と認識し理解します。
すなわち、散らばった心を散らばった心と認識し理解します。
すなわち、大いに広がった心を大いに広がった心と認識し理解します。
すなわち、大いに広がっていない心を大いに広がっていない心と認識し理解します。
すなわち、より優れたものを持っている心をより優れたものを持っている心と認識し理解します。
すなわち、無上の心を無上の心と認識し理解します。
すなわち、サマディに入った心をサマディに入った心と認識し理解します。
すなわち、サマディに入っていない心をサマディに入っていない心と認識し理

解します。
すなわち、離解脱した心を離解脱した心と認識し理解します。
すなわち、離解脱していない心を離解脱していない心と認識し理解します。
大王よ、同様にこれは、実に現実に利益をもたらす出家修行者の果報であり、先行する現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より素晴らしく、そしてより極妙なのです。
……（中略）……
九四　大王よ、全く同様に、向煩悩滅尽多学男がこのようにサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、情欲はなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適し、集中継続して、不動を得たとき、彼は前世の生き様の記憶修習に従う精通に心を定め傾注するのです。
彼は、様々な前世の生き様を思い出します。つまり、一生、同様に二生、同様に三生、同様に四生、同様に五生、同様に十生、同様に二十生、同様に三十生、

同様に四十生、同様に五十生、同様に百生、同様に千生、同様に十万生、同様に多くの還元期、同様に多くの再生期、同様に多くの還元再生期において、『わたしはそこでは、このような名前であって、このような家系であって、このような容色であって、このような食物であって、このような苦楽を経験し、このような寿命の最期であった。このわたしはこれから死んで、そこに転生した。

同一にわたしはそこでは、このような名前であって、このような家系であって、このような容色であって、このような食物であって、このような苦楽を経験し、このような寿命の最期であった。このわたしはこれから死んで、ここに転生した。』と、このように状態を伴い説明を伴う、様々な前世の生き様を思い出します。

大王よ、同様にこれは、実に現実に利益をもたらす出家修行者の果報であり、先行する現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より素晴らしく、そしてより極妙なのです。

……(中略)……

九六　大王よ、全く同様に、向煩悩滅尽多学男がこのようにサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、情欲はなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適し、集中継続して、不動を得たとき、彼は種々の生命体の死と転生の精通に心を定め傾注するのです。

彼は、清浄であって人間を超越した天眼によって、種々の生命体が死に転生するのを見て、種々の生命体が要素の蓄積に従って達し、卑しかったり高貴であったり、器量が良かったり醜かったり、幸福に向かったり悲痛に向かったりするのを認識し理解します。

『尊者よ、確かに、これらの生命体は、身において悪行を具足し、言葉において悪行を具足し、意識において悪行を具足し、聖人を非難し、誤謬見解（ごびゅうけんかい）があり、誤謬見解の要素の蓄積の記憶実践がある。彼らは身体が破壊し、死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に転生した。

尊者よ、すなわちしたがって、これらの生命体は、身において善行を具足し、

言葉において善行を具足し、意識において善行を具足し、聖人を非難することなく、正見解（しょうけんかい）があり、正見解の要素の蓄積の記憶実践がある。彼らは身体が破壊し、死後、幸福に向かうことである天の世界に転生した。』

と、このように、清浄であって人間を超越した天眼によって、種々の生命体が死に転生するのを見て、種々の生命体がその要素の蓄積に従って達し、卑しかったり高貴であったり、器量が良かったり醜かったり、幸福に向かったり悲痛に向かったりするのを認識し理解します。

大王よ、同様にこれは、実に現実に利益をもたらす出家修行者の果報であり、先行する現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より素晴らしく、そしてより極妙なのです。

……（中略）……

九八　大王よ、全く同様に、向煩悩滅尽多学男がサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、情欲はなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適

し、集中継続して、不動を得たとき、彼は種々の漏の破壊精通に心を定め傾注するのです。

彼は『これは苦しみである』と如実に認識し理解し、『これは苦しみの生起である』と如実に認識し理解し、『これは苦しみの滅尽である』と如実に認識し理解し、『これは苦しみの滅尽に至る方法である』と如実に認識し理解します。『これらは種々の漏である』と如実に認識し理解し、『これは漏の生起である』と如実に認識し理解し、『これは漏の滅尽である』と如実に認識し理解し、『これは漏の滅尽に至る方法である』と如実に認識し理解します。

したがって、このように気づき、このように見て、愛欲漏から同様に心は離解脱し、生存漏から同様に心は離解脱し、非神秘力漏から同様に心は離解脱し、『離解脱において離解脱した』という精通が生じ、『生は破壊され、神聖行を果たし、なすべきことをなし、この世に存在することにおいて求めることはない』と認識し理解します。

大王よ、これは実に、現実に利益をもたらす出家修行者の果報であり、先行する現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より素晴らしく、そしてより極妙なのです。

大王よ、この現実に利益をもたらす出家修行者の種々の果報よりも、より超越し、あるいは、より極妙な現実に利益をもたらす出家修行者の果報が、他にあることはないのです。」



人の魂に宿る不思議な力、
我々はそれを「超越神力」と呼んでいる！

超越神力（ちょうえつじんりき）

麻原彰晃著



PART-3
完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通

B6判 定価550円

智慧の離解脱、心の離解脱で心のけがれを完全に破壊した最終解脱者だけが知る〝完全なる絶対なる神の叡智〟とは？ 最後の超越神力、漏尽通の秘密がいま明らかになる！



PART-1
天耳通・他心通

B6判 定価980円

神々の声、遠くの声を聞く「天耳通」、相手の心を知る「他心通」を特集した待望のシリーズ第一弾！ ベールに包まれた〝超越神力〟のすべてがいま明らかになる!



PART-2
前生を知れ！死生智の秘密

B6判 定価980円

修行によって魂が本来持っている〝不思議な力〟が発現したとき、人は自らの前生を思い出し、輪廻転生の仕組みを悟る。麻原尊師が「死生智」の秘密をここに公開!

（定価には消費税が含まれています）

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は、下記までご連絡ください。
オウム出版 本社 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL 03(3439)6043 振替 東京2-108325
営業部 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598


衝撃の真実！キリストの大予言
再臨・裁き・終末
キリスト宣言PART2
神の審判のとき、この世は破滅する――『聖書』にまつわる破局の様相が、今ここに明かされる。イエス・キリストの大予言をいよいよ解読！
キリスト宣言
PART―2
再臨・裁き・終末
麻原彰晃 著
B6判 550円
●ご注文は書店にお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は、下記までご連絡ください。
オウム出版
本社 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL 03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598

PART-5



絶対の真理

B6判　定価980円

善業も悪業もなしたことが必ず返ってくる——幸福・不幸の根本原因であるカルマの法則を多くの実証例を交えて説く。

PART-6



願望成就の秘法

B6判　定価980円

安全で確実な願望成就の秘法とは？ 仏教の教義にのっとった正しい願望成就法により、この世での願望は本人も気付かぬくらい自然とかなってしまう……。さらには、解脱・悟りにまで至れる方法を惜しげもなく公開。

PART-7



仏教真理　八正道

B6判　定価800円

最終解脱者のみが語り得る八正道の真の意味合い。高い解脱・悟りへ至る道を、具体的に、現代でもすぐに実践できる方法として説き明かす。巻末に「道に関係づけられた経典（道相応）」の現代語訳も掲載。

PART-8



仏教真理　六波羅蜜

B6判　定価900円

大乗仏教における在家信徒の最も重要な修行法の一つ、六波羅蜜。この修行プロセスを着実に実践しさえすれば、在家でも必ず解脱へと至れる！ 巻末には、高弟たちの体験談の特別付録付き。

PART-9



尊師、聖地インドを行く

B6判　定価750円

尊師がインドを行く。不思議な神秘の力によって、様々な過去の事実を明かされる尊師。第一部では、信徒と共に行かれた巡礼の旅の全記録を、そして第二部ではなんと、今まで部外秘だった直弟子用奥儀説法を満載！



PART-11

尊師、講演特集

（仮タイトル）

B6判　予価700円

近日発刊予定

（価格にはすべて消費税が含まれています。）

「幸せになりたい！
でも、信徒になるのはちょっと……」
そんなあなたに贈る
最高のプレゼント！

『えんじょい・はぴねす』の定期講読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝ＥＨ会員〟になることができます。ＥＨ会員は信徒ではありませんが、自由にオウムのイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。
お気軽にオウムをのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……
◉オウム主催のイベント、説法会等へ自由に参加可。
◉幸福情報を満載したEH会員手帳をもれなくプレゼント！
◉成就者との対面および電話による悩み相談。
◉各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（ＥＨ会員）になるには？

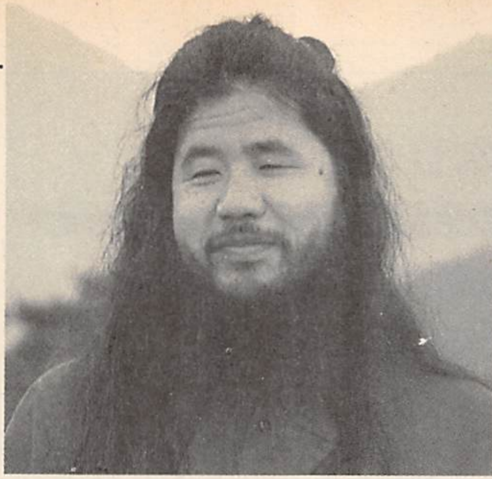
※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申込み、料金の払い込みが確認されるとＥＨ会員となります。
なお、定期購読の申込みは６カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。

オウム真理教

新しい〝あなた〟との出会い

二千五百年の時を経て甦った真理がここにある！



もっと明晰な頭脳があれば……
もっと記憶力があれば……
もっと集中力があれば……
わたしたちが願ってやまない潜在能力開発の夢を、
オウム真理教は独自の「仏教・ヨーガ」メソッドによって
あなたに贈ります。



古くから伝わる仏典やヨーガ教典によれば、聖者と呼ばれる人々は、この世のすべてを知り尽くし、心は常に安定し、望めばかなわぬことがないという、いわゆる〝神〟のような存在であったという。しかし、彼らとて最初からスーパーマンであったわけではない。〝長く厳しい修行の後、これらの力を得た……〟と教典は語っている。

すべてを知り尽くした最終解脱者、麻原彰晃尊師が、数多くの技法の中から、忙しい現代人に最も適した修行法を厳選し、あなたの内側に秘められた素晴らしい力を、早く、しかも確実・安全に引き出してくれる！

◆

◆

※資料請求について

資料請求券を貼付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等詳しい資料をお送りいたします。

キリトリ線

超越神力 PART4

資料請求券

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『超越神力PART 4』読者係」までお送りください。

〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
オウム出版「『超越神力PART 4』読者係」

◆各本支部のご案内◆
富士山総本部 0544(54)1267
〒418-01 静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部 03(3327)8565
〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部 03(3396)9393
〒167 東京都杉並区下井草4-4-4 井口ビル2F
大阪支部 06(397)1022
〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部 092(474)2877
〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部 052(252)0709
〒460 愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部 011(241)4938
〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部 075(371)3759
〒600 京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部 022(268)3904
〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部 0762(51)8457
〒920 石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部 0888(84)8286
〒780 高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部 082(264)6250
〒732 広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部 045(243)8079
〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部 0734(24)2859
〒640 和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部 0292(26)8044
〒310 茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部 0474(66)4965
〒274 千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所 0485(74)6205
〒366 埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所 03 (3476) 5065
〒150 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部 212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部 (0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany

超越神力PART4
わたしは見た！　これが尊師の超越神力

一九九二年一月二十一日　初版発行

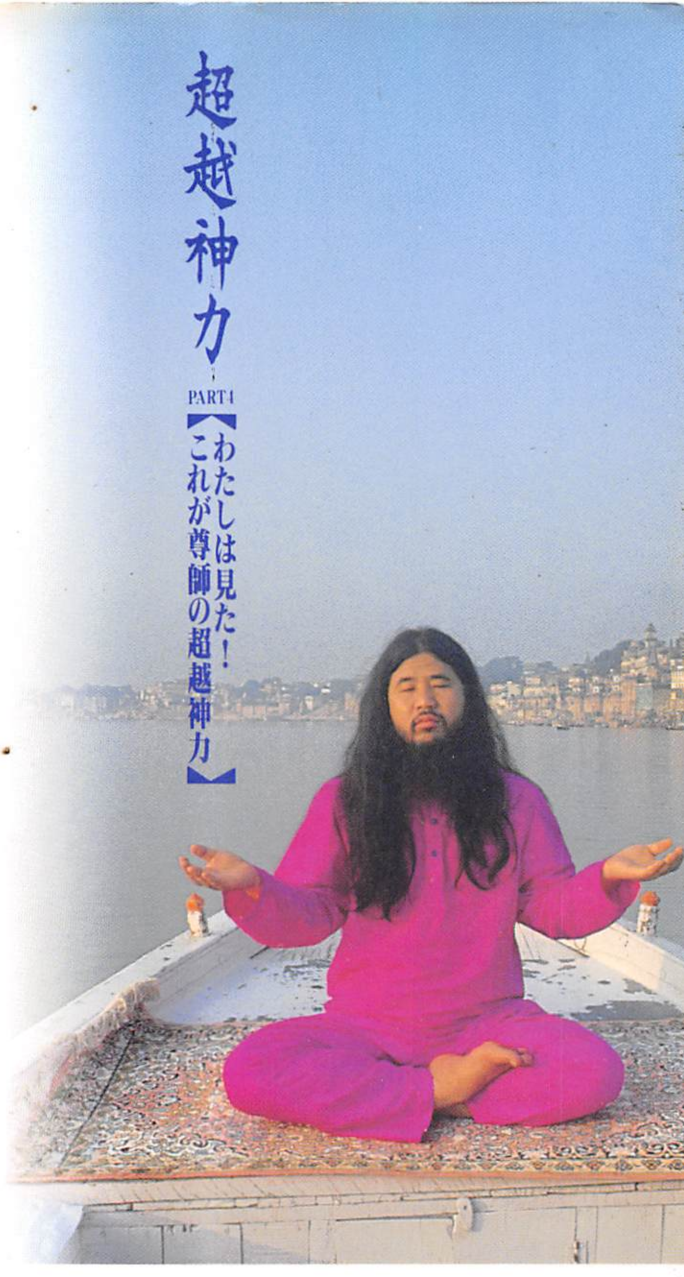
定　価　五七〇円
発行者　松本知子
　　　　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
東京都世田谷区世田谷二―八―一七
郵便番号　一五四
電　話　〇三（三四三九）六〇四三
振　替　東京二―一〇九三二五
乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

ISBN4-87142-011-6 C0014 P570E

超越神力

PART4

【わたしは見た！
これが尊師の超越神力】



ISBN4-87142-011-6 C0014 P570E 定価570円（本体553円）